

F短大 電気科 S.62卒

S.K君 (男性 26才)

勤務先 T鉄鋼 (株)

短大入学について

Q Kさんが、F短大に入学されたのはどんな理由によるものですか。

F短大に入学したのは、高校の数学の先生がF短大で学校説明があったときに行かれて、非常に設備が整っており、20名くらいの小人数で、かなりきちっとした教育をされていると聞いたからです。

Q そうすると、学校に入学してから、短大の教育の実態を見て、入学前に認識していたこととそんなに違わなかったですか。

そうですね、もっと期待していたせいか、たまたまなのかもしれませんが、同期の人達の中には、他の大学の受験に失敗して来た人が何人かいらっしやったと思うんですが、なにか挫折感を持っていて、いまいち授業に身が入らないみたいな人がいて、ちょっと期待していたのとは違った雰囲気を感じました。

Q 授業の内容そのものはどうですか、話を聞いていたものと大きな違いがありましたか。

全般的に非常に難しかったので、私もそれなりに努力しました。

Q O先生に指導を受けようと決めたのはいつ頃だったのですか。

1年生の時です。O先生に電磁気を教わったのですが、他の先生とはなにか違うのです。授業のされ方も違いますし、電磁気という科目のとらえ方も違うのです。まず初めにオリエンテーションをされておりますけれど、学生に、電磁気というものが、電気工学の中でどういう位置づけになってるかという話から話されるんです。その時、O先生は他の先生と違うなと感じて指導をお願いしました。それにその当時、変わった就職を望んでいる人がいるんだったら、早めに相談に来いという先生のアドバイスがありました。私はちょっと変わったことを考えていたので、その相談にうかがったのが、O先生の研究室に行くきっかけになった感じです。

今もそうですが、その当時非常にスキーが好きだったので、スキー板の設計ができないでしようかと、相談に行ったのです。先生はミズノやヤマハなど、方々のスポーツメーカーにあたっ
て下さいました。しかし、スキー板の設計は国内ではひとりかふたりいるだけで、全然求められていないんです。スキー板の設計はヨーロッパでは、かなり活発に行われているという話ですが、国内では殆どなくて、その仕事をやるという事は、東大に入るより難しいという結論に達した訳です。

Q その情報はどこで集めたのですか。

実際にO先生に手紙や電話で連絡していただいた結果、国内ではそういう分野の需要は非常に少ないということがわかって考え直したのです。

Q Kさんは学校に残られたのですが、就職活動はしなかったのですか。

研究とか開発に以前から興味を持っていたのです。ですから、スキー板の設計は無理かもしれないけれど、他の研究とか開発にかかわる事ができないかなという気持ちがありました。それで、そこに行くには力をつけなければ、そういうところで仕事はできませんので、自分を磨きたいと考えて、卒業後も学校にいたのです。

Q ところで、Kさんは在学中に学会発表をしますね。

3件ほどしました。まず、セラミックス業界の関東支部大会が群馬県の桐生市でありまして、そこで「SiC焼結体の焼結助剤の添加量の効果」というテーマで発表しました。これは1年の時です。そして2年の時に「SiC焼結体の電気伝導ファニーリング効果」というのがありました。もう1件は電子通信学界です。今は電子通信情報学界になってます。研究室に残って1年目の時に「SiCセラミックスのまるみ添加」というテーマでまとめまして、N化成に入社したのち、会社の許可をもらって、短大の研究室に在籍ということにして発表させてもらいました。

はじめに就職した会社での仕事

Q その内容は、N化成の仕事とは結びついているのですか。

私の希望としてはとにかく材料をいじくりたいと考えていました。その当時材料系をやっているところがいくつか候補に上がりましたが、その中に、N化成ものっていました。そして、N化成には2年半いました。その時、配属された工場は、配線盤材料の周辺材料を主に作っているところでした。この工場の開発部に入りましたので、当然に仕事の内容は配線盤の周辺材料に関係していました。例えば、回路の絶縁用のインクであるとか、触媒をもたせた無電解メッキ用ディストインクとかいろいろあるのです。まず初めについた仕事は、回路の絶縁用の絶縁インクの開発に関するテーマでした。担当の方が一人いらっしまして、その下について勉強するという事です。具体的にいいますと、N化成が以前作ったものにクレームがつかまして、品物が戻ってきたのです。それでこういう点を改良してもらえないかという話がありました。その改良点にターゲットをおいて、改良品を作るというのが目的でした。その改良は成功し、やりがいのあった仕事でした。2カ月か3カ月はその仕事をしました。その後、系列会社と共同で無電解の多層基盤用の触媒と絶縁を兼ねたインクの開発を、先輩の担当の方と私の二人でやりました。期間は1年弱でした。

Q かなり重要な仕事もやらなくてはならなかったのですね。その仕事の中身もう少し聞かせて下さい。

実は、2番目にやった仕事は結局ものにならなかったのです。開発するにはいくつかのクリアーなくちゃいけない目標値があるのです。まず一つのターゲットを越えたと次のターゲットに向って進むのですが、一つのターゲットを越えて2つ目のターゲットを越えようとする、一つ目の性能が落ちるという事で、かなり苦勞しました。でも、苦勞といっても、2番目のテーマの時は、先輩方の考えに沿って、実験の助手をしました。今まで無機材料を中心にやってきたので、有機材料に慣れる事を目的にやらされたのだと思います。実験では、添加物の種類とか、添加の量とかをいろいろ変えてやりました。そして、先輩の方が方針を決められて試作に入る訳です。それは実際にはものになりませんでした。もう少しのところでいって、実際にはものにならなかったのですから、ショックはあるのですが、でも、相手の要求の仕方に問題があったのです。“これまで行ったら使いますよ”という目標があって、私達の仕事にはその目標に達したのです。でもそれは最低限で、まだ不十分だ、更にここまでと相手が要求してくるのです。しかし、それも達したのですが、また、その上の基準を要求されて、これでは終わりがいいのではないかという事情があり、今の材料と技術の限界ではないかと判断されたようです。それに10カ月くらい従事していました。それから退社まで1年ちょっとありますが、その間のテーマは配線盤の周辺材料のフラックスという材料の開発でした。ですから、N化成での仕事は材料関係という事でした。

Q ということは、学校で学んだことと、どのように関係していたのですか。

基本的には扱う材料が無機から有機に変わりましたから、学校のカリキュラムとは殆ど関係がないといえます。しかし、指導教室から、物事に取り組む姿勢とか、考え方とか、実験の進め方とかを教えていただいた事は大変役に立っています。

転職について

Q その後、N化成からT鉄鋼に転職されたのですが、その場合、何が転職の動機になったんですか。

入社するときに話しは聞いていたのですが、N化成は卒業生を短大、高専扱いにしないのです。高卒プラス2年なのです。仕事に不満があったというわけではないのですが、上司も仕事をかなり私に任せてくれましたから、仕事自体はかなりやりがいがありました。ある程度、材料関係のことなども判ってきて、面白くなってきたところでした。

退社のきっかけになったのは、技術者とはなんたるものかというような講話があった時、その対象は高専とか学卒として入られた方だったのです。やってる内容は私と全然変わらないのです。それでやはり、N化成で頑張ってもそういうことが一生ついてまわるなと感じて退社したのです。

Q 短大問題の中で大きな問題なのです。我々もその問題を解決する努力をしなければならないのですが、それには短大卒業者の就業の実態をきちんと踏まえなくてはならないわけですが、他の教育機関の卒業生と比べても、これだけのことができるんだ、立派な仕事ができるんだということをきちんといえる材料が欲しいのです。今日の話しも、実はそういう方向にもっていくための材料なんだと考えていただければいいと思います。

もともと、私は就職希望先では、無機材料をやりたいと思ってました。できればセラミックス、更に絞って言えばS i cという希望だったのです。当時はS電工に希望を出していたのですが、S電工は短大卒を採らないので、無理でした。そういうことをO先生に記憶されていて、たまたま私が相談に行ったときにT鉄鋼を紹介されました。当時、T鉄鋼はS i cパウダーの用途開発をしきりにやっていたのですけれども、卒業生や在校生にいい人材はいませんかという照会がO先生のところにあったのです。その当時、自分の可能性を試したいという気持ちがありまして、自分の好きなことをやれるんだったら、小さいところでもよいと思い、N化成をやめました。

Q T鉄鋼では処遇上の問題はどうでしたか。

T鉄鋼ではクリアーできています。もう3年6カ月くらい勤めています。

現在の仕事について

Q T鉄鋼で従事してこられた仕事をちょっと教えて下さい。

入社した初めの1年間は、T鉄鋼の作ったパウダーで晶結体を作って、その晶結体の特性を明らかにするというのが私のテーマでした。

特性をいろいろ調べてこういうところに用途の可能性があるのでないか、こういう方面に用途があるのでないか、あういう方面にあるのではないかと、検討していたのです。

今やってる仕事は、静電気を除去する装置の電極材料です。静電気除去の電極材料は今後かなり可能性があるのですが、T鉄鋼でも、セカンドソースとしてやったらどうだというお話をO先生にいただいたのです。それでしたら違う方法でやらせてもらいたいということで、開発が始まったのです。そうこうしているうちに、S電工がアメリカにサンプルを出したのです。しかし、その試験で、不可がついてしまって、初めてうちが浮上してきたのです。T鉄鋼の作ったサンプルも、S電工で作ったのとあまり変わらないということだったのです。もちろんS電工のサンプルもうちのサンプルも欠点がありまして、開発競争になったのです。そうして最終的にいいものができたのはうちだったということなのです。

Q 何人のグループで、その仕事に当たっていらっしゃるのですか。

2人です。私と実際に現場でものを作ってもらっている人と2人です。

Q 実質的には、Kさんが責任を持ってやっておられるのですからやりがいがありますね。

やりがいがありすぎるというくらいあります。現場の工程の管理から、すべて私が見なくてはいけないのですから。やはりT鉄鋼がS電工に勝ったということは、私が学生の頃、S電工に行きたかったけれどS電工が採ってくれなかったので、私情を挟んではいけないのかも知れませんが、私がどうしてもS電工に負けたくなかったのです。

短大教育について

Q とても面白い話を聞かせてもらいました。今短大の教育を振り返ってもらって、短大に対して何か助言のようなものがあればお話し下さい。

そうですね。今の学生は、勉強でも遊びでもいいのですが、何か夢中になることがあまりないかなという気がします。学生時代にしかできないものが沢山あると思うのですが、そういうことにもっと目を向けて、一生懸命やった方がいいのではないかと思います。そういうことで、学校の先生とか、教材とか機械とかが利用できれば更に最適であると思います。

Q 短大の同期の人、先輩、後輩と会うことがありますか。

同期の人は、皆頑張っています。先輩のSさんは群馬のN電機で、その部所の柱的な存在ですし、同期のI君はN真空でやはり自分の部所で柱的存在になってます。I君も私と同じように3年生まで残りました。もう一人S君も短大でしばらく残っていたんですが、この人はS電機で勉強して、今TI（テキサスインスツラメント）で活躍しています。かなり皆頑張っています。

Q そうするのは電話したり、たまたま会ったりしたときに噂になったり、お互いに話を聞いたりすると、自分ももっと頑張ろうという気になったりしますか。

そうですね、そういう気になりますね。

大学進学について

Q ところで、Kさんは東京理科大の二部で勉強しているのですね。いつから行ってるのですか。

2年前からです。試験を受けて二部に入り直しました。N化成に就職するときに、既に進学したいという気持ちがありましたが、その時は就職の方を選びました。実はある協会の若手の研究者、技術者を集めた講習会に出席した時のことですが、そういうところに来る人達は一流企業の研究所の人ばかりで、一流大学をでている人が殆どだったのです。その中で仕事の話しをしている時、学校はどちらですかと聞かれ、F短大ですと行っても知らないのです。私の気のせいかも知れないのですが、学校名をいうと相手の態度が変わるというか、ニュアンスが違ってくるような気がするのです。何でなのかな、やはり根強く学歴というのがあるんだなと痛感したわけです。それだったら大学をできればいいんじゃないか、そうすれば、学歴コンプレックスもなくなるのではないかというのが動機になって、大学へ行こうと思ったのです。動機はそういうことだったのですが、今まで仕事をやっていて、一流の研究者になりたいという思いがふつふつとわいてきたことも動機です。

当然職訓短大から一流の研究者が出ないとはいえないと思うのですが、大学でいろいろな方と知り合いになって、人脈ができれば、そういうのもかなり役に立つのではないかと思います。

Q いろんな機会をつくるということは大きな財産になることは間違いないですが、会社の中で責任ある仕事をしながら、大学に行くのは大変でしょう。実際にはどうやっているのですか。職場は東京の近くではないでしょう。

その辺は、会社に感謝しています。私の希望を受け入れてくれたわけですから、そのために勤務時間の変更をしてもらっています。朝30分早く出て、終りを3時半にしてもらっています。そのかわり、うちの会社は隔週土曜日休みなのですが、それを休まず毎週でています。勤務時間をちょっと変えてもらっているのです。3時半に仕事を終えて、大体2時間半くらいかけて、大学に行ってます。授業は5時半から9時半までです。

帰るのが大体12時近いのです。ですから寝るのは2時か3時になってしまいます。

Q そういう生活を支えているのは何ですか、研究開発をやりたいということですか。

そうですね、自分がどこまでできるか、自己実現ですね。自分がかかなり高い目標を掲げているのですが、一人前の研究者になりたい、また、自分の人生は最高だったと言って死ねればそれこそ幸せな人生ではないかと思うわけです。ですから、そのためには、今自分は何をしなければいけないのかということを考えますと、確かに友達と海へ行ったり、山へ行ったりというのも充実した時間ですけれども、それだけではつまらないと言うか、つまらない人生というか、もの足りない人生になってしまうのではないかな、それだったら、自分の夢が実現できたら、それこそ、すごい人生だったと思えるのではないかと思ってやっています。しかし、大変ですが、20代のうちにベースをつくりたいと思っています。

(面接者：富田)

A短大 電子科 H. 2 卒

T.S君 (男性 23才)

勤務先 Y電気 (株)

短大入学について

Q T君が職訓短大に入学した動機から聞かせてください。

そうですね、短大を知ったきっかけは2年前になりますが、ある新聞をたまたま見ていたら、K市に短大がオープンするというのを見たのがきっかけです。普通短大と言ったら女子を思い浮かべるんですけど、男の短大という感じを強くうけました。読んでみたらそ、それは職業能力訓練校で、あれと思ったんですけど、良くみると短大で、ああ面白そうだなと、その時思ったんです。もっと良くみると雇用促進事業団と書いてあって文部省の管轄ではないことがわかったのです。それで高校の進路指導室に行けば何か資料があるだろうと捜しにいったんですけど、その時に岡山とか、川内にもあることがわかり、卒業生もわりかしのいい企業にも入っていることもわかりました。

文部省系列の学校だとどうしても、頭が先行しがちだと思ったんです。私の行っていた高校は進学校で、東大にも毎年1名か2名は入っているんですけども、それでも卒業後は、ちゃんとした会社に入れるとかという必ずしも入れないということがわかったのです。それならば何か免許とか、職を持っていた方が就職するときに有利ではないかと思ったんで、それで、4年制の大学と短大と受けてみようかという気になったんです。そのころ私立大学がはやりでしたので、受けようと思ったんですけど、家の事情もありましたし受けられなかったんです。そんな時、4年制の大学にいていた先輩に会う機会がありまして、話を聞いてみたら、やっぱり私が想像していた通り、学問でなくて、実技優先だということがわかりました。それで、まあ、こんなことを言ったら悪いんですけど、職訓短大も意外と学費が安いということもありまして4年制大学と短大と受けたんです。本当は、ちょっと残念ですが4年制の方が落ちて短大の方に運よく受かったのです。浪人しても良かったんですけども、まあ、この先何があるかも分からないので、とりあえず、短大を選んでそこでみっちりやれば又4年制の大学にも編入できますので、それでやろうと決めました。それがまず第1の選ぶ理由でした。

それで、短大に入ることにしたのですが科を決めるについては、これからどんな分野が伸びて行くかと考えたときに、一番のびていきそうな分野が電子科か、情報処理か、ソフトウェアかなとは思っていたんです。しかし、私はどうもデスクワークがあまり好きでなかったんで、それよりものんびりできたらいいなと思って電子科を選んだのです。ですけどパソコンなんか扱ったことがなかったんで、学校に入っていくなりキーボードに向かってプログラムを打てとか何とかいわれたとき、これは本当に実践的だなと思ってやった記憶があります。

実際この会社に入って感じたことですが、九工大では、やはりほとんどが制御とかそういう関係の勉強ばかりされているんですね。実際この会社に入ってびっくりしたんですけども、精密機械などもこんなふうにポンとポンと手で扱っているんです。私たちならばそれこそ端と端をもつというように扱うのに、なんの処理もやってないのを握っているんですよ。係りの人に怒られてましたけど……。また、ICを扱うときでも指紋をつけてしまうようなことをやっているんですね。その他にもICの中身を知らなくて、プラスとマイナスをつなぎ間違えたりして、こわいことをやっているんです。新卒の時の話なんですけれど、その面で職訓短大の卒業生はいいかなと思いました。

卒研ではロボット関係のテーマをとりまして、それでロボット関係の企業をえらんだんで、地元の企業であるY電気に就職を希望しました。それが駄目だったら、もう地元ではロボット関係の企業がなかったんで、N電気を受けようかなと思っていました。まあ、一番始めに受けたY電気にたまたま受かって、地元だし家も近いし、会社自体もしっかりし、私の第一志望でもありましたんで、ここにはいることになりました。

就職について

- Q それで、電子科を卒業して、ロボットをやりたいということでこの会社に入ったわけですが、決めるときに何か学校の先生や就職担当の先生に相談をしましたか。

そうですね、最初求人票を見るところから始まったんですけどどれも、私はロボット関係の仕事を中心に何社かピックアップして、その後に進路指導の先生にこの会社どうなんですかと聞きました。卒業生がいて話を聞く機会があったという関係でこの会社を選んだのです。

- Q だから、地元ということにはあまりこだわっていなかった訳ですか。

そうですね。なるべく近い方が一番いいと思ってはいたんですけども、それは年をとってからの話という程度に考えていたんです。若いうちなら東京でも、外国でも構わなかったです。まあ、2、3年向こうで修行して来て、なるべく近づきたいという、離れていてもふるさととはふるさとですからね。

- Q 最近の卒業生にも、そういう話をするんですけど地元指向の者が多いですね。東京、大阪にある会社には行きたくはないとか、地元しか行きたくないとかいう者が多いですね。

私の同期生にも最初は東京で就職したのが十何人かいたんですが、そのうち2人か3人位こっちに帰って来ています。向こうにいつている仲間でも3、4人はそろそろこっちに帰って来たいといっているようです。

現在の仕事について

- Q 今、自宅から通っているんですか。

そうです。1時間かかるかかからないかです。

- Q いま、どんな仕事をしているのですか。

入社試験を受けた当時はまだ売り手市場だったんで、私は最初強くロボット関係の仕事に就けるように希望していたのですが、後で聞いてみると、この会社を選んだ理由というのは、ほとんどの方がロボットの仕事をすることを希望していたらしくて、それは4年制大学のいいところをでた人が担当することになったようです。

- Q システム装置工場というのは……。

全部で事業部が4つか5つあるんです。まずロボット部門、Y電気の主力製品であるモータ部門、それを動かすインバータ部門、それと配電機器の4分野です。モータとそれを動かすインバータをうまく利用するというのが私のいるシステム装置工場です。対象はどういうものかといったら、私もここ入るまで知らなかったんですが、鉄工、紙、フィルム繊維、クレーンというところをやっているんです。まあ、すぐには思いつかないかもしれませんが、一番思いつくのが、福岡ドームの屋根の開閉部分、最近オープンした宮崎のシーガイアの開閉部分は全部うちの会社が制御しているんですよ。

- Q 次にいまの仕事について聞かせて下さい。

システム装置工場は、大きく分けて鉄工部門と紙、フィルム繊維、その他の事業部に分かれるんです。うちの会社は鉄工関係では知られた電気の会社として、S日鉄さんとのつながりが深かったんです。鉄工は鉄工石を溶かす高炉がなくてはなりませんが、その高炉は100%うちの会社のものです。ですから、溶かすところから製品出荷までのラインを設計しているんです。他社も設計はしているんですが、特にその中で、高炉はシェアが100%です。

Q 電気と鉄を結び付けてイメージすることはあまりありませんね。

地域的にも近いし、もともとモータの製造に力をいれていたのでラインを作るのにうってつけだったんです。鉄工は、溶けたドロドロのやつをだんだん細長くして、その時にローラで押しつぶさないといけないのです。それを何で制御するかといったらモータで制御しますよね。圧延機もそうだし、板にコーティングしたり、そこらはモータを応用しているみたいです。紙や、フィルムや繊維にも応用しているのです。ラインの鉄工と同じように力をかけて延ばしてみたり、ほそ長くしてみたり、コーティングしてみたりするんです。一番身近な所では最近のインスタントカメラの写りがすごく良くなっているんですが、あれはやはりインバータで細かく混ぜてやっている関係でフィルム写りが良くなっただけです。制御を作っている工場にうちのインバータなんかを納めてやっているらしいです。

Q ちょっと話はかわりますが、ブラザー制度というのはどういうものですか。

ブラザー制度というのは、新入社員は何をしていいかわからない、ルールもわからない、どんなことを勉強したらいいかわからない、などというように何もわからないのです。この新入社員に対して、入社3年から5年くらいの人を付けて、仕事のやり方、プライベートのことなどなんでもいいですし、相談のできるような制度をつくったのです。

Q そろそろT君もそういうブラザーの……。

そうですね、ただそういうふうな予定だったんですけど、課が変わりましたので……。

Q それでは仕事に対するやりがいについて聞かせて下さい。

それはどこの会社でも一緒だと思うんですけど、最初の2、3年というのは、自分で何をやっているんだろうと思うんです。とくに設計という仕事は、実際に出来上がったものを見ないで終わってしまうことが多いのです。そうなるとうつなげないとか、物が入らないという話になることもあって、いろいろ問題があるのです。自分が作っても感動がないんです。ただ、一つ仕事を果たしたというだけで、結果が見えてこないんです。そういう面で、最初2、3年ものすごくつらい思いをしました。最近、社内に社員の顔見知りの人ができて、後輩には進めているんですけどもちょっとでも顔出しに行け、顔出しに行けば向こうの人だって、いつもは怒られることもあるけれど、その時ばかりはわざわざ怒鳴り散らすこともないですから、そういうとき雑談なんか、コーヒーの一杯も出してくれますんで、そんな時に雑談やデスカッションしたり、余裕があればいろんなことを聞けといっているのです。そして、十分達成感を持てるよ、どこまで苦労したかがよく分かるよ、そういう実感を持つていうことを言っているんです。

研修について

Q 話はまたかわりますが、短大をでてから、ここに入って仕事をする上で講習会等に出たことがありますか。

そうですね、大きな講習会はないんですけど、会社では通信教育を勧めているんです。通信教育で自分の技を磨けということでしょうか。でも、ただ単に仕事の関係ばかりかと思えば、そうでもないケースもありまして、結構多種多様です。

Q そういうものに対して会社として補助がありますか。

基本的には自分持ちですが講習が完結すれば費用の一部分を会社がもってくれるのです。

Q 仕事に直接関係する講習会を受けたことはありますか。

社内的にはないですね。システム装置工場は、設計の他に開発も入っているんです。それで、お客さんに対する教育サービスもするのですが、その関係で社内的にその用事はことは足りていないんです。

短大教育について

Q 進学校から実技中心の短大に入って、わずか2年間の教育の中で、何か難しいというか、取っつきにくい、あるいは何をやっているかわからなかったということはなかったですか。

カリキュラムは一連の流れじゃなかったですね、まだあの当時は、かたや基板を組んで実験をする部分もあれば、かたや物性といって原子レベルの話をされたりして、全く想像がつかないようなものが多かったんですね。中にちゃんとした英語とか数学とかがあったんですけど、こっちで、実験やって、こっちで数学やってですね、さらに文化人類学とかがあって、落差が激しくて頭を切り替えるのが大変でした。2年間しかないんで、仕方がないとは思うんですけども、できたら、1、2時間目には机の上の勉強で、3、4時間目でその実際の実習をやり、さらに午後からその実際に組んでみて、やってみてその答を出すように時間を組めたら分かりやすかったと思います。

Q ところで、同期に職訓短大卒業生と、文部省短大や高専あるいは四大の卒業生がいると思うのですが、この人達に比べて、なんか違うかと、そういうものを感じることがありますか。

気になるところは、短大と高専との関係なんですけど、わたしたちの扱いという点では全く変わりません。昇進では四大ですが、短大とか高専とかいうのは全く関係ないです。今の課長クラスでも結構高専卒の方とかいらっしゃるんで、仕事が出来さえすれば、会社としては文句ないですね。そういう所は割りかし寛大なところがありますね。お山の大将でないみたいのところありますし。

Q T君自身が仕事をする上で、高専なり、四大の人と比較して自分と違うと思うことがありますか。

専攻の違う人がほとんどなんですが、すごい方なんかは、物理を専攻して私と仕事を一緒にやっている人もいます。物理なんていうのは原子がどうのこうのといっている話なのに、そういう人達がいきなり図面書いている世界ですから、あまり比較するというのは分からないですね。

Q さっき、基板をダイレクトに手で触る人がいて、それに比べれば職訓短大の卒業生だったらそんなことはしないという話がありましたね。実技的なところでは抵抗ないということでしたね。四大卒の人の中には図面はかけても、実際の配線基盤を作ろうとしたらどうやって作っていいかわからないとか。

私の課に高専卒の人で優秀な人がおられたんです。私はその人にみっちりしごかれたんです。まず、頭で考えるより紙に書けといわれるのです。紙に書けということは大学時代からいわれてましたから、身に付いていまして抵抗感がなかったのです。その先輩がいろいろ失敗談とか、対処方法なんかは教えてくれたんで助かりました。そういう面では大学時代も助かっていますし、会社に入ってから、大学時代に養ってきたものが大きく役だっていると思います。

Q 短大教育への希望で、短大のときにこういう科目があればよかったとか、何かとくにあれば聞かせて下さい。

これだけはというものをいわせてもらおうと、まずモータと力関係のことはどの科でもやっていても損はないです。特にこの会社は、モータで成り立った会社なんで、どこにいても、どんな仕事をするにしてもモータ関係は絡んで来るんです。その次に、これは入ってからの話になるんですが、電気の世界なので電氣的なことをやっておけば、わりかしすんなり入れるかと思っています。

Q 最後に短大に対する要望があれば聞かせて下さい。

大げさな話ではないんですけど、学校はあくまでも平準的な勉強をするところで、会社はそれぞれ専門があります。うちの会社にしてみれば、モータとかインバータとかに特徴があります。一方、入社してくる人は、例えば、職短から入った人でソフトの勉強をしてきた人もいれば、ハードの勉強をしてきた人もいます。しかし、自分の得意の分野、例えば、卒研などは安易に選んでなくて、自分のやりたいものを選ぶべきだと思うんです。現にやりやすいものを選んで就職に失敗してる人も何人かいるんです。私の場合はやりたいものを行ったんで、そういう失敗はなかったんだと思っています。教育が平準的になるのはしかたないにしても、自分はこれから先何をやっていくのか、絶対にこれを行きたいというものを、卒研で選ぶべきだと思うんです。そこを選んで、初めて自分の好きな会社に、行くことができると思うんです。

(面接者：新貝)

F短大 電気科 S.63卒

N.Y君 (女性 25才)

勤務先 自営

短大入学について

Q Yさんの場合は、F短大の電気科を選ばれたのはどういう情報で、どういう理由で選ばれたんですか。

入学前は電気というものがどういうものかということがよく分かっていなかったんです。テレビとかなんかそういった家電製品みたいなものが電気というのかなという感じくらいしか分からなかったんで、入ってから初めてソフトウェアというものもあるし、ハードウェアというものもある、そのハードウェアという中にも、回路とか材料、半導体関係材料とか、いろいろな分野に分かれていっているというところが、分からなかった……。ですから、電気イコールソフトウェアなのかなと思ったりもしました。そのころは、プログラマという言葉がわりとはやって、電気に入ればプログラマにもなれるし、物理の電気という部分もあるし、そういったあいまいな感じでした。

Q 当時女子が工学をやるというのは珍しかったのですが、Yさんが工学を志して受検したという事はどういう理由でしたか。

高校の段階で、理系とか文系組とかに分かれますよね、その時に自分はなんとなくに文学というものよりも、新しいものを発見していく分野が、将来自分の仕事とした場合、夢があると思って理系を選んだんですけど、その中でどうして工学を選んだかと言うのは自分でも分からないです。

Q 学校入ってから進路が選べるような制度があるといいというようなことを聞くことがありますか……。

ソフトとハードというのは、向き不向きがすごく、特にソフトは向き不向きがあると思うんです。ですからやってみてちょっとソフトが合わないという人もいたんじゃないかと思いますが、向いている人はいいと思うんですけど、自分はどっちかというものを作った方が好きだという人も多いと思うんです。だから入学してハードウェアの方がよかったと思う人もいるんじゃないかと思うんです。

卒業後の仕事について

Q Yさんご出身はどこですか。

埼玉県のK市です。短大の2年間は寮に入りました。2年間終えてから、O先生の所へ、1年残ったんです。はじめは就職することを考えたんですけど、不況という事情もありまして、なかなか希望の会社に入れなかったんです。それでO先生にあらためてもう1年指導を受けたのです。そこでは2年生の時、やっていたセラミックスの電気電動理論の勉強を継続しながら、電気英語、技術英語も勉強させていただいたんです。

Q 卒業して自分の思うような所へ就職ができなかったという事があって、1年残ってというお話しでしたが、その後、就職された会社はどこでしたか。

Nリライアンスと言う会社で、モータ制御の部品を作る会社でした。希望としてはN真空へ就職したかったんですけど、そこは女性の一人暮らしはダメで、家から通勤可能であることが就職条件だったのです。そんな時Nリライアンスから紹介がありましたので就職したわけですが、そこでは、実験助手で、いろいろと試作した基板の電氣的な特性の試験をするのですが、そういった事の前準備ですかと、データの処理ですとかをやっていました。そこに2年いました。

そこでは、開発という仕事の関係から、コンピュータのソフトの事とか、CADも多少勉強させていただいたんですけど、自分にとってはすごく勉強になりました。例えば、コンピュータのソフトウェアに関しては基礎から応用まで教えていただきましたし、ひとつの製品を作っていく上で、まず、制御の理論を考えてそこから回路図を作って、これを基盤して、製品を試作して試験するというように、電気製品がどういう風に作られていくのかというのがなんとなく全体がつかめるようになりました。

Q そういう実験的な仕事ですと、卒業後、研究室での学んだことが大部生かされているのですか。

研究室の研究というのは、電気量を使ったりしまして、電氣的にもちょっと危険な事が多かったのです。そんなわけで理論中心の勉強をしてたんです。もう少し詳しくいいますと、研究室では、シリコンとかカーボン、セラミックスを電気材料として使うという研究だったんですけども、そこで、電気がどういう風に流れていくのか、それがどのように作っていったら、例えば、電流と電圧の関係で、電気材料として使えるようになるのか、あるいは、なぜ電気がそういうふう to 特性を持って流れるかという事などを研究していました。

Q そこで実験の基礎を学んだのですか。

そこでは分担があって、例えば温度を変えるとどういう特性になるという事を研究している方とか、配合比をどういうふうに変えれば、どういうふうになるか、それぞれテーマとして持ってもらったんですけども、先生と一緒にやらせていただいた勉強は、それを全体的に見て、そのセーブ条件を変えるところというふうに、温度を変えるところというふうに、また配合比も変えるところというふうに変わってという、そういうひとつひとつのパーツから全体像を眺めるといような、本来でしたら先生がやられる仕事というか、全体が見られる方がやるべき仕事を手伝わさせていただいたのです。

退職して翻訳を

Q ところで、Nリライアンスには何年くらいいたんですか。

2年間です。職場の人と婚約したのですが、同じ開発部の人だったんで、どうしても課は変えなければいけないんで、そうなりますとやはり製造とか、製造部とか品質管理みたいな所になってしまうので……。それで会社を辞めて、またO先生のところにお世話になったんです。そこで又低温の勉強さをさせていただいて、今は少しづつですけども、翻訳の仕事をいただいているんです。

Q その翻訳というのは、どういう中身のものが多いんですか。

電子工学一般なので、いろいろな部門がありますが、主にはトランジスタですね。トランジスタの改良をしていく論文というのは、いろいろでていますので、それを、翻訳しています。

Q その翻訳するという事はそれに対する専門の知識がないとできない事だから、大変な仕事だと思いますが、月にどのくらいの量をやるんですか。

月に10件くらい。ひとつの論文を5行にまとめて、アブストラクトを書くという仕事で、日本科学技術情報センターと言うところから仕事を紹介されてきます。ひとつの論文の要約に早い方で1時間か2時間だと思うんですけど、私はやっぱり半日くらいかかりますね。

工学の分野は、発展がすごく早くどうしても新しい事が入り込んで来ますので、そんな時は自分で勉強して要約することになります。参考文献をいろいろと買ったり、先生からいただいたりして……。仕事は自宅でするのですが、送られてくるのが1カ月くらいなかったり、分野がなかったりしますので、不規則なんですけれども、私はまだ平成4年の暮れに登録していただいたんで、まだ50件いってないかもしれません。

短大教育について

Q Yさんのお仕事というのは、短大の時のカリキュラムが延長しているという形ですから、短大教育が非常に自分の職業に対して意味を持っているんだという考えていいようですね。それで短大の教育についておたずねするのですが、短大教育を見た場合に、短大とはこうあったらいいんではというそういう思いはありませんか。

私のころは電気科だったので、高圧関係、配電とかが、あったんですけど、それは今仕事としては今使ってないんです。どちらかというと電子関係の仕事についていましたので、もうちょっと半導体関係の勉強が多かったらよかったのかなと思います。

Q 他には何か思い当たる事ないですか。

後は、電子科と情報科が合わさったようなシステムだったら私としてはよかったかなと思います。ひとつの言語を勉強するだけでなく、ソフトウェアをどうやって使っていくかというような、専門的でなくてもよいのですが、一般的に使えるような、会社に行ってもすぐに会社にあるコンピュータに対応できるような柔軟性みたいなものがあればよかったと思います。ひとつの言語だけ勉強していると、その言語以外のものは、全く使えないという風になってしまうので、もうちょっと柔軟性のあるソフトの使い方みたいなものを勉強したらいいかなと思います。

例えば個人的にはMS-DOSは必要だと思っています。MS-DOSが分かっていると、その上にいろんなものを乗せられますので、ベーシックだけとか、フォートランだけっていうだけでなく、私はどちらかというとMS-DOSをもっと勉強していればよかったかなと思います。

私が卒業してからは電子技術科になったようですが、その中で電子と情報と分かれてしまっていて、そのどちらを主として勉強するかというと、自分が情報に向いているか、ハードに向いているか、よくわからないことが多いのではないかなと思うことがあって、ちょっとかわいそうかなという気がします。まだ高校生だとどうしてものがソフトで、どうしてものがハードかと言うのが難しいし、やってみてちょっとソフトの勉強が合わないと言うのがあると思うんです。

Q 他の教育機関の教育と職訓短大の教育はどういったところに違いがあって、どういったところにメリットがあるのかという、卒業生像の違いが浮かび上がってくるといいなと思っているんですが、これについて何かご意見はありませんか。

女性の場合は少ないですから難しいです。四年制大学の理系に進まれた方の話を短大の時にちょっと聞いたんですけど、私たちは1年生の時から専門分野を勉強しましたよね、しかし4年制の場合1、2年は一般教養で、自分はまだ高校の延長みたいな事しかやってないのに、短大にいった人は専門の分野を勉強できてうらやましいと言っていたのを思い出します。

Q 今の仕事これからもされる予定ですか。もう勤めるということは考えておられないのですか。

生かせる職場があれば職場に入ろうかなという気持ちもあります。外国向け、輸出向けの製品のマニュアルを作ったりする仕事にも実は関心がありますので……。

(面接者：富田)

D短大 生産機械科 S.60卒

K.N君 (男性 28才)

勤務先 N製作所 (株)

短大入学について

Q 短大もN君が入学したころとは、変わっていますがN君がD短大に入学した理由は、どのような理由だったのですか。

一応東京の専門学校の方に入る事に決まっていたんですけど、担任の先生がお金も安いしこういう短大があるので、受けてみなさいといわれてた受けてみました。

Q 東京の専門学校はどんな科でしたか。

確か情報処理だったと思います。そのころは、あまり深く考えていなかったです。だから、とりあえず、どこでもいいから行こうと、自分のやりたい物もよく分からなくて……。短大を選んだときも電気よりは機械かなという感じで、機械科を選んだ感じでした。

現在の仕事について

Q この会社は社員何人くらいですか。

従業員は3,200名で海外にも工場があります。僕も1回いったんです。ライン設備導入で3ヵ月くらいドイツにいました。そういうふうに外にでて行くのは勉強になります。その時は2名か3名くらいでラインを作りに行ったんです。

Q ところで職務的な移動というのはあまりないんですか。

ないです。そこら辺は高校卒とおんなじ扱いで、高卒者はなるべく地元採用でやってます。外へはださないようにしようとやってます。そういう事から、僕らも保護されているのです。ただ10年、20年たてばもうどこ行くか分からないし、工場内の移動はかなりあると思います。こういうことを考えると、英語は大切ですね、海外に工場がありますので英語能力がかなり問われます。給料にも、国家試験に合格していれば手当がつきます。

Q N君は生産機械科卒業ですね。

私は2期生で、卒業して9年たちます、僕らが短大に入学した時は、まだ方針が確立されてた訳ではないようで、勉強の内容も今はかなり違うと思うんです。当時は実習的要素が強くて、例えば、機械、旋盤とか、フライス盤とか、そう言ったものを重点的にやってたんです。とくに2年間のうちの1年間は、そういう事をやりながら設計をやったり、一般教養をやったりして、2年になったときに、今で言うファナックを使ったNC旋盤、フライス、そう言ったものをやったんです。卒業して、この会社に入って、いま生産技術と言うところで設備のメンテナンスと設計開発をしています。特に今不況の中ですので、いかに工数を削減して、生産性をアップするとか、生産性をあげ、人件費を削減するために、設備を開発しなさいというテーマがここんとこしばらく続いているんです。

Q 設備の改善とか新規導入にかかるセッティングという事をやってるんですか。

例えば、ベアリング、シールにグリスを入れてシールを入れるという仕事は普通のベアリングなら場内のオンラインでできるんですけど、例えば車のテンショングリルのベアリングは非常に形が複雑で、いままで機械化をしてなかったんです。人の手で入れた方が早く確実にだからなのですがそれを機械化するという事です。

確かにやりがいはあるんですけど、現場は生産が重視されているんです。設備を入れるという事を見込んで生産の方も組んで来るわけです。そうすると、”入って動いて、当たり前”という様なプレッシャーがあってやりがいと言うよりも、プレッシャーの方が強いんです。

Q お一人でやられているんでなくて、何人かのグループというか、チーム組んでやられているんですね。

一応まだ入って、経験がそんなにある方ではないですから、上司の指示を仰いでやっています。チームは、仕事の内容によっても変わるんですけども、今までのリピートの仕事をやる場合もあるんです。例えば場内オンラインの設備のオーバーホールは、機構が大きく変わるわけではないので、そういう場合は、例えば機械1名電気1名、大体普通2名位で組むんです。ですけど、いままで手でやったものを設備を導入して機械でやるような場合には当然何が起るかわかりません。その道のプロフェッショナルで、何十年もやっている人だったら多分その人ひとりだけでいいんでしょうけれど、僕らのようにあまり経験がない者はやはり上司の指示を仰ぐなり、上司と僕ともうひとり後に入った人間を、育てていくという意味で、新人がついたりします。

Q そういう中で、今Nさんの立場はどういうものですか。

入って9年同じ職場にいるんですけど、うちの生産技術と言うのはかなり人の回転が早いです。だから早い人なら1年でどこかに行ったり、中で変わるんです。ですから9年も同じ職場にいるというのはかなり長い方です。その中で例えば設備の担当というのがあるんです。大きく分ければ、検査、組立に分かれているんですけど、組立というのは7、8名なんです。私は組立の方にはいるんですけど、8名の中でも2番目か3番目くらいに古いほうです。

Q 一つの会社で入ってからずっと、生産技術課にいて、組立設備をやってきてというのは、信頼されて、まかされているということですね。

僕たちが入ったときは、学校を卒業して、いきなり生産技術に入るといった前例がなかったようです。入社したとき課長に言われたんですけど、初めての試みなのだそうです。私と、もう一人ボール工場にいる電気科を卒業した者が同じような立場にいます。そう言った意味で、仕事ののみこみが悪いというような評価があれば多分動かされているでしょうけれど、それなりには評価されているのかなとも思いますけれど。

Q お互い、がんばってるんだとか、話しなんかされますか。

同じ短大卒の、彼とは付き合いが長いし、結構話はします。しょっちゅう顔会わせているんで……。うちの場合、高卒者は大概ラインに入り、大卒者はある程度研究的なものが要求されて、どんどんそういう職場にいくんです。僕らは短大卒業して、高卒者よりは知識はもっているということで、生産技術という職場にいます。

Q Nさんの目からみて、企業というのはどういう人を望んでいると思いますか。

学生と社会人というのは全然違いますね、学生というのはどんなに言っても甘いんです。実際僕らが学生の時には甘かったと思います。企業に入るとどんどんたたかれますから、たたかれるけどなるべくそれにつぶされないように、つぶされないようにするにはどうするかと言うのは難しいことです。実際僕もそういった意味で、悩んだことがあります。特にこういう位置にいればいるほど悩むんです。例えば、仕事ではそんなのは当然分かってくる位のつもりで見られるんです。そういう事に対するプレッシャーとか、責任感に対するプレッシャーというのはものすごく、かけられますよね、そういう事とにかくつぶされないようにするという事でしようね。そこで駄目だと判断されたら、本人はおそらくさって辞めていくことになるでしょう。

研修について

Q 入社してから入られて、技術的な事がどんどん進むなかで、どんな教育を受けましたか。

自己啓発として、通信教育で電気制御回路、シーケンスのコースを受けました。今は機械材料の通信教育を受けています。テキストで勉強しテストをやって添削してもらおうのです。うちの会社には補助があって、良い成績を取ればある程度見てくれます。

Q 費用の一部を会社が見てくれるという事は、こういう事をやっていかないと仕事についていけないのですか。それとも自分の将来を考えて。

やはり自分の将来を考えてのことです。

Q 通信教育をNさんみたいに受けている人というのはそれほどはいないのですか。

数としたら少ない方だと思います。私はまたついこないだまで、4カ月間で品質管理の研修を受けてきたんです。かなり高度でして、例えば有意差検定も勉強しました。泊まり込みでやるんです。例えば何かの測定データが10個あって、何かを改善して、その10個のデータを比較して良くなったか悪くなったか、そういうのを検定する手法なんです。

Q 一応対象は大学以上となっているのですか。

高校卒であっても、例えば僕みたいな生産技術課みたいな職場にいる人であれば、受けられます。ただ、高校卒で現場にいる人がそれを覚えてもあまり役に立たないと判断されると受けられません。

Q 自分で申請する形なんですか。

いろいろあると思います。上司からこれをやりなさいといわれたり、また品質保証課の者は皆んな当然知ってなければいけない課なので、率先して行けと言われる場合があるんです。

Q どちらで研修を受けたのですか。

三重県です。そこで40名くらい集まってやるんです。いま磐田の工場にいますがどうも他が見えないわけです。各工場は工場でいろいろな考えがあるわけで、その情報交換にもなるんです。今一番感じるのは、外部の情報と言うのをなかなか収集しにくいことです。技術的なものも当然そうなんですが、例えば安全に対する考え方なども関心があります。僕らの開発した機械で指を落としたといったらもう本当に自分の責任になってしまうわけですね、そうしたら安全に関してとか物の流れ方の考え方とか、そういうものを、だんだんと考える様になって来るんです。最初入ったときは上司について、あれをやれと言われた事をやるだけです。だんだんやってくるとなると、おまえこれをやれと言われてやるのですが、なかなか細かいところまでは教えてくれないんです。

短大教育について

Q それではちょっと話はかえますけど、今の立場で、Nさんが短大を見たときの要望とか希望、これからはこういう短大卒が企業が望んでいるんじゃないかと言うような事聞かせていただけませんか。

やはり、今思うのは、今後メインとなっていくロボットとか、それを利用するパソコンは切っても切れないものになっているんですね。これを自由自在に使いこなせること。そしてシーケンス回路の知識は必要です。もうこれは電気屋さんの分野なんだといっておれない、誰もが知らなくてはならない状況になってきているんです。要は機械屋であっても、こう言ったことに精通している様な人間でないとなかなか企業では通用しません。僕らが短大にいたころは、そう言ったことは全然やっていなくて機械で物を作ることが主体でした。そういったことが役に立ってないわけではなく、役にたってますがただ僕らの時にはそればかりにつき込みすぎたように思います。ですからパソコン、電気制御などもある程度でも、知ってて入った方が、取り組みやすくなるんじゃないかと思います。私の場合には、なかなか入り込めないところがありました。

処遇について

Q 会社での、短大卒の処遇はどうですか。専門学校とか、高専とか、文部系の工業短大との格差はありますか。

それはないと思います。短大の勉強は実際知識として吸収していることも差はないし、本人の努力次第では、かなり高レベルなとこまでもって行ける内容だと思います。僕らの時でさえもそう思うので、今でしたら、もっと高度なものを吸収してこれるんじゃないかと思います。それにしても僕ら卒業生は短大のことが気になりますね。名前が変わると言うのも新聞で読みましたが、やはりそういうのは気になります。周囲の人から短大をよくいわれると、やはり卒業生としても嬉しいし……。

Q 現在の仕事に対するやりがいがありますか。

あんまり忙しくてやりがいと言うのを感じた事ないですね。

(面接者：尾崎)

L短大 情報処理科 H. 2 卒

K.O君 (女性 23才)

勤務先 Hテクノシステム (株)

短大入学について

Q OさんはL短大を卒業されているんですね。

うちの兄がL短大の電子科に行ったんで、私は四大の理工系に入りたかったので受験したんですけど、受かったのが短大だけだったんです。

就職について

Q この会社に入って何年目ですか

4年目です。就職してからずっとこの会社に勤めています。自宅から通勤していますが、ちょうど1時間くらいかかります。

Q この会社に就職するのにどうして決めました。

まず家から近いということと、ちょうどこの業界が伸びていた時期だったので、若くて楽しそうな会社という印象がありましたし、あまり大きな会社ではないので、システムの一部じゃなくて、自分が一個のシステムをつくるというふうなことを聞いていたので、それで入ったんです。もっともそれ以前に先生の方にも、近くで就職する会社がないかというのを聞いたんですけども、電子科の先生方からここは近くだからどうだと紹介されて就職しました。

現在の仕事について

Q こちらは従業員は何人ですか

300人位だと思います。

Q 具体的にはどういう仕事をやってるんですか。

今、第4システム設計課にいらんですが、今までは防災関係の仕事でした。アセンブラの6809を使ったデータのやりとりでした。アセンブラをチームで組んで、600ステップ位のプログラムを作りました。それがいちばん初めの仕事で、最近やったのが、ハンダ線欠陥検査装置というのを作りました。それはファームウェアなんですけれども、その大きな基板のいもハンダみたいなものをエックス線を通して、どこに欠陥があるかを調べる仕事です。普通に見ると、いもハンダは、浮いているところが判らないですが、それをエックス線を通して見るというもので、その基板が動かす動作のところを作りました。キーを押すと2分動くというような制御で、ほんのお手伝いなんですけれど。最近ではソウルの地下鉄の、FD関係のフロッピーデスクですが、画面から入力記録するんですけども、フロッピーデスクを入れたり取ったりといった、そんな手伝いばかりなんです。

次にCをやりました。そのファームウェア関係が結構多かったです。SMD半田付け欠陥検査装置の仕事もしました。後は、ハイトスというHオペレーションシステムという大きなシステムがあるんですけど、そのデバッカーとして、ベーシックでジグプログラムをつくったのと、やはりデバッカーなんですけれども、そのハイトスを検査するためのものをつくっていったんです。そのくらいです。

Q そういうのはシステム設計ですか。

そうですね。大体改造が多いです。私の場合は新規でやる場合もありますけれども、今度始まったのは動画像コウリックといって、会議とかでテレビの台を見ながら、その一部をちょっと改造してJ Rに納めるように変更するのです。まだちょっとかじってるだけなんですけれど。

Q この会社はそういう仕事を中心ですか。

いえ、新規でやる場合もあります。私の課はたまたまそうであって、後は映像とかカメラともありますし、C G (コンピューターグラフィック) もあります。課によっては無線もやっています。

研修について

Q 卒業した時点ではすぐできないと思うんですけども、そういう仕事ができるようになったというのは、こちらでどんな訓練を受けたからなんですか。

1 カ月くらい、C 言語教えられるんです。C 言語の指導があって、それで自分で簡単なゲームソフトみたいなものをつくるんです。それが1 カ月か2 カ月くらいありまして、それについての新人発表みたいなのがありました。そのあと指導員が一人と (指導員というのは仕事上の面倒見てくれる人)、他に P A というのが (P A というのは生活上で悩んでいることはないとか、遊びにつれていってくれたり、そういうふうな人) について、1 年間。そしてC 言語の研修が終われば、つぎは6809の勉強をやりなさいという指示がありまして、簡単なものからつくっていきました。初めは稼働図、流れ図から詳細仕様書まで渡されて、こういうのつくりなさいといわれるのです。そのうち、仕様書だけぼんと渡されて、詳細設計からやれという感じでした。

短大教育について

Q 入社した仲間は、Oさんみたいな職業訓練短期大学校に入った人ばかりですか。

そんなことはないです。四大出の人で全然やったことがない人もきます。私の方が絶対できるぞ、というような人達がきますけれど、どんどんやってるのですぐ慣れるんです。いろいろやらされるので。1 年2 年たつと殆ど変わらない。そういう人は何も習ってきていないのに、この会社でそういう訓練を受けることによって、1 年位にはみんな同じくらいになってしまうのです。

Q そうなると、短期大学校で習ったことはあまり生きてないということになりますか。

人によってはアセンブラしかやってない人もいます。私の場合、C もやってたし、フォートランとかもやっていたので、会社の方でも「それをやってるなら、そっちもやらせよう」ということになるのです。だから広く浅くになっちゃうんです。今特に「この会社でちょっと嫌だな」と思ってるのは、なんでもできるからちょっとした仕事がいっぱいくるんです。特に仕事がないからあんまり深く入るというよりも、いろいろのものの手伝いみたいな感じで。私としてはCをもっとやりたいなと思ってるんですけども。

Q 他の大学から入ってきた人と比べて、コンピュータではきっちりやっているから、引けを取らないかも知れない、とそんなこと感じましたか。

そうですね、最初は自分たちの方が絶対知ってると思いました。確かに言語は私達の方がよく知ってますけれども、やり方が違うんです。例えばCでしたら、数学的なプログラムしか作っていないので、会社に入るとまた違うんです。短大の時はとにかくこれやれといわれて、300ステップもそのまんまC言語書いてましたけれども、今度は構造化プログラミングで画面を表示するところとか、データを計算するところとか、けっこう初め難かったです。

Q 普通は各ブロックに分けて、やっていくのが常識的ですね、この会社の方が現実的で、正当派ですね。要するにC言語は仕事をするための言語ですからね。

数学的にいっても、要するに数学の一種の科学として、モジュール的に動きを作るだけであって、全体の流れを見ると一つの科学なので、それも1年くらいたつと、プログラムを組むということに関しては、みんなと同じ位になってしまうのです。課によっても違いますけれど、そこでC言語がばりばりだったらプロになっちゃうし、アセンブラの方に行ったら、知らなくても教え込まれてしまうから。

Q 短大でこういう科目が一番役にたったとかいうのありますか。

C言語を教えてもらったことですかね。ハードもやったんですけど、うちの会社少しハードが入ってるので、研修の時ハードもやらされたんです。だからハードの見方は自分で知ってましたんで、そこら辺はよかったです。つまり情報処理科と電子科が合同で授業やったことの意味が生かされているといえるのです。だからいまの私の仕事についていえば、結局ハードの部分で仕事が遅れたから、ソフトを1カ月でやってくれとか、いわれてしまうので、もうちょっとハードが見られたらいいなと思っています。

私はアセンブラをあまりやっていないのですが、1年目にパスカルやってから、Cをやって、フォートランも2年間やったんですけど、基本的にはアセンブラをやってからC言語をやった方が、C言語はよくわかるような気がします。

Q 会社としてハード的なことを知ってる人が欲しいのですね。そういう人を採用してますか。

電気系とかけっこういます。ハード系にも同じ仕事してる人もいます。そういう人は、ハードのチェックができるんです。だから短大でもハードのことで電子的なメカニクの方をもう少しやって欲しかったと思っています。もっともソフトハウスみたいところに就職したら全然関係ないと思いますけれど、でもSEを目指しているのだったらハードも判らんと、駄目だと思えますね。ソフトだけ判っていても、ハードも少しかじっておかないと、全然知らないと、“えっ”と思いますから。なんかやったことがあれば抵抗はなくなりますから。

処遇について

Q 処遇は女性の方でも、全く同じですか。

全然同じです。差がないです。残業何時間やっても。うちの会社、女の人が少ないということもあるんですけども、他の面ではかわいがってもらえますけれど、仕事の面に関してはそういうのはないです。しかし給与の面では四大がすごく優遇されていまして、四大の次が高専で、短大は専門校並みになってるんです。そんな中でも高専卒は優遇されているんです。やはり、一応5年間専門的なことをやってきた、ということを見ているのではないですか、うちの会社は……。

Q 他の文部系の学校からきている人もいますか。

M短大から2人きてます。うちの短大からは一人結婚してやめまして、一人は名古屋の方に行きまして、後先輩が一人いて、私がいまして、後輩が3人くらいいます。その中で女性は3人いましたが一人やめました。毎年一人は新入社員を採ってます。

仙台にうちの会社があるので、そちらの系列のと、後、電気大とか日大とか、理科大からも採用しているようです。そういう人達に比べて給与的にはがくと下がります。同じことやってるのにショックですね、頭にきます。残業も違うんです。1時間あたり200円から300円くらい違います。初任給も私の場合13万くらいでしたが、大卒は16万くらいです。ボーナスでも差がでるんです。基本給と言うのがすごく低いんです。下級と初級というのがありまして、基本給にかかって来るんですけど、その基本給が短大とか専門とか大卒とかで違うんで、同じ年で今年入ってきた大卒の方が10万も上になってるから、殆ど、逆転しています。どこの大学を出ても大学は大学ですけどに……。入った当時はそんな差はないって聞いてたのに……。

ある程度年齢も掛けて欲しいと思います。大卒と短大卒で差はできていいですけど、あまり抵抗のないくらいにしてほしいですね。だけど休みは多いんです。休みは取り易くて、みんな人がいいんです。それがあるからやめないでいるんです。

Q ところで、今は景気の厳しい時代ですが、〇さんも営業にまわる可能性はありますか。

ありますね。3月位に大移動があると言われていたのですが。営業にまわったら私はやめます。

今仕事ないので、我慢のしどころかなと思ってます。いろいろな所のお手伝いみたいになってるので……。営業とか、製造とかに一時期回された人もいますが、その人よりはいいと思ってるのですが……。

(面接者：石橋、江後)

B短大 情報処理科 H. 3 卒

S. T君 (男性 22才)

勤務先 H社

現在の仕事について

Q T君は今何課にいますか。

所属は、『和の大和鉄人』です。普通の会社に置き換えると技術本部とかそういう所になると思います。技術本部と考えていただければよいと思います。

Q 会社に入って何年目ですか。

ええと、3年目です。

Q どういう仕事をなさっているんですか。

基本的には、うちの会社はゲームソフトを作っているんです。そちらのプログラムの方をアセンブラとC言語を半々に使って作っています。

Q Tさんはアセンブラもできるし、C言語もできるということですね。

まあ、実力はあまり無いんですけど、分からないところは先輩に聞いたりしてですね……。

Q 最初から3年間ずっと、その仕事ですか。

ハード関係の手伝いもその間ちょっとやっていたんですけど……。

Q ソフトの製作と言うのは学校ではやらなかったんですか。

学校では一応実習がありました。最初入った年にフォートランなんかをやって、その後、半年経ってからCをやって、アセンブラを1、2年やったのかな。

Q アセンブラはZ80ですか、それとも8086ですか。

確か8086です。Z80も少しですがやりました。

Q T君は情報処理科ですよ、その頃は情報に技術科もありましたね。

私がいたときは、電子技術科と、情報処理科と、情報技術科と3つでしたか、ええと、情報技術ではなくて、応用情報だかなんだかそんなような名前でした。

Q 合同の授業はあったんですか。

3科で合同の授業は1年次の最初、一クラス22人として、60人でありました。だいたい1年間は3つの科が一緒にやるというのが普通で、1年の後半で各科ごとに分かれて。

Q 2年になってからは。

2年になってからは、情報処理科の中でもまた二つに分かれて。

Q どういう所で分けるんですか。

生徒の希望で、ええと、主にソフト関係の人と技術関係の人に分かれて。

Q T君はどちらの方に行かれたんですか。

ソフトの方です。

Q 短大に入る前からソフトの方に興味があったんですね。

そうですね。

Q じゃあ、仕事も面白いでしょうね。

一応子供の時から希望どおりにできて。

処遇について

Q 今、給料はどのくらいもらっているんですか。

だいたい、手取りで15万位です。

Q 手取りということなら残業代も込みですよ、大体月に何時間くらい残業しますか。

うちの会社は特殊ですので、ゲーム関係の仕事をやっていると、残業の時でも、遊んでいるのか、仕事しているのか区別が付けにくいんです。考えている時間がかなりあるんです。

Q ソフトの中では、かなり技術というのが必要でしょう。そうすると、高い非常にいいソフトを作る場合とか、いろいろ出来上がりによってだいぶ違うと思うんですが、歩合制とかそういう制度はとってないんですか。例えば能力給みたいなもの、そういうのはないんですか。

そういうのはありますね。どちらかという、すごく頑張ったと認められた人にはその分給与が多くなったりというのがありますね。

Q T君が入った当時ですね、大和鉄人には他にどういう人達が入りましたか。

同期では、うちの学校から後二人いて、他には大学出身者も2、3名いたと思います。

Q その人達は同じ仕事をやっているんですか。

そうです。高卒であっても、専門学校であっても、大学であっても仕事は同じです。学歴の差は全く無いです。後は年齢による基本給くらいです。

Q 例えば情報処理専門学校出の人もあるんですか。そういう方と比べて、どうでしょうか。同じ仕事やっていて、そういう人達には負けないとか。

いや、それは個人の能力の問題だと思いますよ。

Q この仕事の場合は目に見えて出てきますよね。目に見えているし、けっこう子供とかが相手の商売になってしまいますよね、だから、売れないと仕事にならない。どうしてもいいソフトには飛びつきますよね。

そうですね。

Q そういう手ごたえというものをを感じるんでしょうね。それだけに難しいんでしょうね。これ1本作るのに結構時間かかるんでしょうね。

早くても1年はかかります。大作とか呼ばれるものだと2年、3年はかかってますね。

Q そうするとかなり苦しいでしょう。出来上がるまでは。

先輩にも聞いたんですけど、出来上がるまでは一応徹夜とかもしたりとか、会社に寝袋を持ってきて、朝居ないぞと思ったら机の下で寝ていたとか、あったらしいです。

Q 本当の研究者ですね。プログラムだからやってみて間違っていたらすぐに結果にでてくるしね、そうするとしばらくは又試行錯誤でやるようになってっちゃうんですね。

やって行けば、ノウハウはだいたい見えて来るんですが……。

Q 普通一人前というとは何年くらいですか。

うちの学校出身で、今もそういうやつのメインの仕事をしている人も居るんですよ。その人で4年目でメインになったとか。

Q じゃ、メインになると給料もぐっと上がるんでしょうね。やはり主任とか役職が付くんじゃないですか。

大体うちは若いですね。平均年齢では若いと思います。

Q プログラマーとかになると、資格とかそういうのが必要になるのではないですか。

うちの会社は、資格とかは全然必要ないです。いいものをつくれればいいんです。

就職について

Q H社を選んだのは、どなたかの紹介があっただけなんですか。

H社が札幌にあるというのは中学の頃から知っていたんです。それで、会社の求人票をみまして、求人があったので受けてみようかなと思って。

Q 学校にそれ来たんですか。

あの、学校の推薦はひとりしかとらないっていわれてたんですけど、私ともうひとりと、後、学校の推薦を受けてきたやつがひとりいて、結局3人とも入ったんです。

仕事のやり甲斐について

- Q 意欲とか、そういう面でも重要視されたんですか。それとも学歴、学校の成績とか、そういうことは余り関係ないんですか。人が欲しいからとりあえず意欲ですか。

どうですか、今後やりがいのある仕事だと思うんですが、期待もあると思うんで、後輩に勧めたいでしょうね。

ひとり後輩も入っているんです。でも昨年度は2人受けたらしいですけど駄目だったらしいです。

- Q 今、何人ぐらいここにいらっしゃるんですか。従業員の数は。

従業員は東京を合わせて5百名前後。後、札幌に芸術の森というところがあって、そちらの方に研究所があって、そこと合わせて850名くらいですか。

- Q 研究所はどういう人達が入っているんですか。

研究所はどちらかといえば、ハード関係の人とか、後、研究所に鳳仙花といって社長の趣味で古銭集めた資料館があるんですよ。そっちの関係者の方とかです。

- Q じゃ、研究所に入れるものは専門学校でた人とか、大学でた人になるんですか。

いえ、関係ないんです。

- Q 関係ないんですか。では、どういう人が。

ただ、仕事上でハード関係とかをやっている人とか、主にそうですねゲームを作る上でツールとかが必要ですよ、例えば絵をかくとかそういうプログラマーもいるんです。基本的なプログラムを作るところですね。

- Q 今、業界で非常にその厳しいというが、ここではそういうことはありますか。

今年は苦しいって言ってますね。

- Q 研修とかは受けるんですか。

一応3カ月間は研修期間です。

- Q 新入社員教育を、それはどんなことをやるんですか。

まだ入ったときはCも知らないっていう連中もいるんですよ。だからそんななかで、レベルに合わせてCの特訓したり、後アセンブラをしたりとかをやるんです。

- Q そうすると、その人の弱いところの研修をするんですか。

基本的にはそうですね、後、ゲーム作っているときに、デバグと言ってゲームにバグがありますね、そういうのが新人には回ってきますね。そのときバグに付けろってくるんです。

- Q それにしても差があるんだね。C言語やってこない人もいますとか。

そういうのもあります。

Q そういう面ではC言語をやっていたから、特にそれを受ける必要はなかったんですね。

一応やってたから。その中でも初級と上級と中級とに分けてですね、だから、最初入るときは、ツール関係のプログラマやるか、ゲーム関係のプログラムやるか、わかんないんですよ、基本的には一応希望は聞いてきますけれど。

Q 3カ月の研修を見て、3カ月で分かりますよね。そのとき、僕はこの会社に合わないから辞めてしまうと人もいんでしょう。挫折してしまうとか。

挫折とかは余りないんですね。

Q 辞める人もいないんですか。

他の会社にはいるとか、そういう人はいますけれども。

短大教育について

Q 短大教育との関係の所で、例えば、もう少しこんなことを教えてもらえば良かったなとか、そういうのがありますか。

やはり、フォートランとかを使っている会社がありますけれど、どちらかと言えば、やはり最初からC言語をやったほうがいいと思います。フォートラン使っている会社でも旋盤関係とか工業関係の方でCとかアセンブラが多いらしいんですよ。中でもCが一番汎用的ですね。

Q 学校の科目の中で、その一番関連の深い科目とはなんですか。

C言語のほかでは、けっこう数学関係では微分とか、二重微分とかそこら辺は関係する科目だと思います。でも、基本的な所を抑えていればけっこう役に立つと思います。例えばキャラクターの動きとか、そういうやつなんかです。

Q これなんかは高校の時にやらなかったですか。

僕は高校の時もやりましたけれど、何か高校出身の人で余りやんなかったということも聞きます。高校によって違うみたいですね。

Q キャラクターの動きというのは、あの動きはそういった数学的な要素ということも必要だね。

そうですね。座標計算とか。座標で基本的にキャラクターの動きを持っていますから、あと、ポリゴン関係もやっていたらと思いますね。

Q 先生は誰でしたか。

担任はK先生です。非常勤の先生で北大からきてました。名前は忘れちゃったけれど。

Q 非常勤のみなさんの受けはどうだったですか。

うちの科はけっこう良かったんじゃないですか。

Q 後は何か、学校の方にこういうふうなことをやったらいいのではないとか、追加してもらいたいとか、希望がありましたら聞かせて下さい。

UNIX関係に慣れておいた方がいいと思います。まだ、私がいた当時ですと、授業内容があんまりよくわかんなかったんですが、そういった、環境に慣れさせておいた方がいいんじゃないかと思います。

Q 専門学校でUNIXやっているところないでしょう。

ないですね。私達の時も入った年の冬頃に計算機センターですかそれが、北海道にできて、そこで少しUNIXのことをやったんですけど、キヤドマシーンと共有していたんで、もうちょっと情報処理するんだったらやっておいて損はないなと思います。

(面接者：石橋、江後)

F短大 電気科 S.62卒

R. I 君 (男性 26才)

勤務先 N真空 (株)

短大入学について

Q 職業訓練短大への入学を決定するにあたって何か印象に残っていることはありますか。

高校3年の時の担任の先生に一応アドバイスを受けて、F短大に決めました。僕が3期生だった関係もあると思うのですけど、さほど宣伝がされなくて、事実、僕もその先生に紹介を受けるまでは職訓短大を知らなかったんです。学校を色々探しているときに面白そうだなという軽い感じで職訓短大に入ってきた訳です。

就職について

Q 卒業後、初めて勤めた勤務先と卒業した短大の距離はいかほどですか。

車で戻ったことしかないので、そちらの値しか分からないんですけど、だいたいここまで(会社まで)200Km 位です。電車で帰ると、3時間・・・、待ち合わせも入れて3時間半位だと思います。

Q 最初の就職先を決定した理由は何ですか。また、決定にあたって影響を与えた人はいらっしゃいますか。

指導教官とは相談しましたが、決定したのは自分だと思います。近くにいろいろ会社はあったのですが、自分のやりたい仕事、学生の頃やっていた研究に近い内容の仕事の出来る会社という感じで選んでいった結果ここに決まりました。

現在の仕事について

Q 卒業後、初めて就職した勤め先はどちらですか。その勤め先の仕事の内容、従業員規模、仕事の教育訓練に関する講習会の受講の有無と内容・形式、満足度等について聞かせて下さい。

今やっているのは一般的にいう電気設計です。一応、装置の方のハード的なものとか、ソフト的なものとかと全般的な図面を書いたり、プログラムを作ったりして、商品化してくことをやっています。従業員数は、本社だけで約1000人です。男女の比率は、たぶん9対1位だと思います。

研修のようなものは、会社に入社したときに2週間程度あっただけです。まあ、形式的な研修だと思います。

Q 現在の勤め先での身分はどのような身分ですか。

役職は特についていません。今、僕は27才なのですが、実際の社会年齢としましては、一年間大学に残ったことがありまして26才なんです。26という年は始めて資格試験を受けられる年なのですが、まだ、資格試験は受けたことはありません。

Q 現在の仕事に関しまして、職種名、仕事の内容についてお聞かせ下さい。

職種名は技術職で、仕事の内容は真空装置に関する開発・設計です。

Q 将来にわたって職業人としての自信を十分お持ちですか。

自信はあります。勉強ができるかどうかとか、知識がどれくらいあるとかという問題ですとあまり自信がありませんが、今仕事をやっていて一番要求されるものは、物事の段取りとか、手順のようなものなんです。だから、知識だけを勉強するというのではなくて、経験で覚えていくものがすごく要求されます。今後、もし、いくつかみんな仕事を抱えているとなったときに、自分がそれができるかどうかというのは、経験がないだけにやってみなければわかりませんが、何とかなると思います。

Q 現在の仕事に対してやり甲斐を感じていますか。

わが社は、世の中一般の会社と違うのかも知れませんが、どちらかというと単発の装置がすごく多いんです。そうすると、流れ作業みたいな仕事は全くなくて、例えば一台の装置を作る話がまとまり、それを任せられると仕事の面白味はすごくあります。ただし、責任が大きいんで、結構きついところもあります。

研修について

Q 現在の仕事に関する技術・技能・知識はどのようにして修得されましたか。

事業部に分かれているので会社全体での研修はありますが、直接仕事に関係するような内容の研修はあまりありません。間接的に関係する研修は、会社としてやっています。自分の事業部内での研修は、入社したときに指導員制度というのがありまして、半年間、個人個人に指導員が1人以上つくのが原則になっています。その指導員に聞きたいことは何でも聞いていいことになっています。

Q 現在の勤め先での技術・技能・知識のレベルはどのようなものでしょうか。

設計や開発をやっているわけですから、レベルは高いと思います。特に、日本ではこの種の会社はN電気アネルバとわが社だけです。

Q 現在の勤め先での職務的移動はありますか。

名目上は何回も変わっていますが、仕事の内容は変わっていません。ただ、入社したときに、いきなり設計にまわったのではなくて、3カ月間製造、3カ月間検査をやって、その後、設計の方にまわってました。それ以降はずっと同じ内容です。

Q 現在の仕事に関して教育訓練等の受講の必要性を感じたことがありますか。

仕事を一生懸命やっていれば、教育訓練はいらないと思います。教室にこもって講義を受けたり、実習をやったりするのは、あたかもやっているような気にはなりますが、実際にはあまり役に立たないような気がします。

Q これまでの仕事、また今後の仕事をしていく上で職業訓練短大をどのように評価されますか。

実験・実習が多いということはよかったです。また、2年になると研究室単位に分かれて卒研を始めるのですが、文部省の学校よりも色々四苦八苦したりすることが多かったのも、そういうところは逆にプラスになっていると思います。

短大教育について

Q 他の教育機関卒業者とあなたの相違点を感じたことはありますか。

特にありません。

Q 職業訓練短大の専門学科目、実技科目、一般教養科目に関して何か希望がありますか。

僕は、真空機器の会社に入って電氣的な設計をやっているのですが、そちらの知識を要求されます。会社によって将来的に要求される知識は、バラバラだと思いますので、特にこうやって欲しいと言うような希望はありません。

Q 後輩に対して、学生時代にこうしたほうがいいのかというアドバイスがあればお願いします。

大いに遊んでいて結構だと思うんですが、英語はやっておいた方がいいと思います。今、僕は英語の語学力がなくてすごく悲しい目にあっているのですけれども……。まあ、できなくても何とかなってしまうものなのですが、英語をしゃべれたらいいのになと思うときが結構あります。

Q というのは、会社に外国の人がくるとか、外国へ行くチャンスが結構あるということですか。

わが社の場合は、もし本当に外国行きたくて、申請すれば、たぶん、即、出してくれると思うのです。だいたい2年とかそんなような程度で……。実際、僕の同期の社員でドイツに2年間仕事で滞在する形になっているのですけれども、そんな感じのものはあります。

Q それは、例えば、ドイツに行くのであればドイツ語の試験とかはあるわけですか。

ええと、特に試験とかはないです。

Q そうすると、極端なことをいえば希望するとしゃべれなくても外国に行けるわけですか。

極端な話、その確率が高いです。ただし、しゃべれない人は余り希望しません。

Q 短大時代に英語であれば、物語を読んでいるよりは会話みたいなことをやっておいてくれたらいいと思いますか。

そうですね。読み書きよりは英会話だと思いますね。

Q 英語で書いたり、読んだりという力はある程度要求されないですか。

実際、普通の仕事をやってる分にはほとんど必要ありません。ただ、寮の中に外国人が何人かいるのです。その人も一緒に出張につれて行くということはよくありますよ。要するに会話が出来ないんで、結構そういうとき苦労したりしますけれど、せいぜい要求されるのはその程度ですね。ただ、しゃべれることがまわりに分かれば、また、それにも要求はでてくると思うんですけど。

Q 最近、教養科目をやらないという国立大学が増えていますが、職業訓練短大の場合は8単位ぐらいありますが、そのへんは必要だと思いますか。それとも、無くしてしまって、いきなり専門科目だけでいいというものと、どちらがいいと思いますか。

ある程度、必要だと思います。さっき言った、英語の件に関しては大いにそうだと思いますし、それ以外の外国語とか、そういうたぐいのものは自然に身につくって言えば身につくのかもしれませんが、入社の試験のこともありますし、ある程度やった方がいいと思います。

Q 世の中にでてから短大を見て、何か一言いっておきたいことがありましたらお願いします。

僕は、あの短大は好きなんで、もっとアピールした方がいいんじゃないかと思います。結構、知名度はあがってきてはいるのですけれども、国公立の普通の文部省の大学に比べると知名度って、やっぱり、おちるんですよね……。総合的に見て。そこらへん、アピールっていうものをもう少ししてもらいたいんじゃないかという気はしますけれども。

Q それは、ただ、パンフレットをたくさん配布してということなのか、それとも、もっとうけのいい名前にした方がいいということですか。

名前の問題は、正直言っていると思います。

Q 今、名前が変わって職業能力開発短期大学校となったのですが、職業訓練短期大学校とどっちがいいと思いますか。

えー……。えーとですね、……。まあ、率直なイメージ余り変わらないという気がします。

Q 仕事をやっていて、やめたいと思ったことはありますか。

やっぱり、こちらの会社に入ってから6年目になりますんで、辛くなって思ったり、何でこんなことをやっているんだろうなんていうときは、ちらほらあります。ええ……。

Q それでもやめないで頑張れる秘訣は何なんでしょう。

学生の時から、この会社を選んで入ってきたということじゃないですか。まあ、会社ですから悪い点とかいっぱいあるんですけども、ただ、他の会社にないい面もいっぱい持っていると思うんです。他の会社に行ったからといって、今以上のいいところにつけるかという、そうとも言いきれないと思いますし、現状ではほぼ満足しています。

(面接者：岡野)

F短大 電気科 H.1 卒

M.K君 (男性 24才)

勤務先 A (株)

就職について

Q 職業訓練短大への入学を決定するにあたって何か印象に残っていることはありますか。

やはり、その時思ったのは、手に職をつけた方がいいんじゃないかなと。就職するに際しても便利じゃないかなと思ったんで選びました。

Q 卒業後、初めて勤めた勤務先と卒業した短大の距離はどのくらいですか。

短大からここまでは、車で4時間ぐらいですかね。家からここまですと6時間ぐらいです。

Q 最初の就職先を決定した理由は何ですか。また、決定にあたって影響を与えた人はいらっしゃいますか。

短大の時の指導教官がこの会社と研究を通してつながりがあったので、僕もこの会社をよく知っていました。自分でも興味ある会社だと思っていましたので、指導教官に頼んで就職できるようにしてもらいました。

現在の仕事について

Q 卒業後、初めて就職したその勤め先の仕事の内容、従業員規模、仕事の教育訓練に関する講習会の受講の有無と内容・形式、満足度等について聞かせて下さい。

サービスなので修理ですとかメンテナンス関係ですね。当社で扱っているものが表面分析の装置なのですけれども、この装置がユーザーのところで故障した場合、それを直しにいくのが私の仕事です。従業員は5人~60人位です。15名程度が間接部門、残りは全て技術者です。技術者の半分が4年生大学、または大学院卒で、残りが高専、短大です。研修は入社したときに2、3日あっただけです。

Q 現在の勤め先での身分はどのような身分ですか。

技術職ですが、主にメンテナンスやサービスを担当しています。

Q 現在の仕事に関しまして、職種名、仕事の内容、役職についてお聞かせ下さい。

職種名は技術職です。仕事の内容は分析機器の設計、開発、調整等でした、役職はありません。

Q 現在の勤め先での技術・技能・知識のレベルはどのようなものでしょうか。

非常に高いと思います。社内には工学博士や理学博士が何人もいて、大学の非常勤講師などをしている人もいます。

Q 現在の勤め先での職務的移動はありますか。

全くありません。

Q 現時点で、仕事はすごく面白いと思っていますか。それとも、あまり自分に向いていないというようなことはありますか。

そうですね……。一応、今のところ幅広い範囲でやらせて頂いているので、まあまあだと思っていますけども。

研修について

Q 現在の仕事に関する技術・技能・知識はどのようにして修得されましたか。教育研修等の受講の必要を感じたことはありますか。

特にありません。一人一人の担当している仕事が全く違いますので、研修のようなものはやりようがありません。もし、研修をするとすれば、マンツーマンになりますのでそれくらいでしたら仕事に先輩に教えてもらったほうが効率もずっとよいと思います。

短大教育について

Q 他の教育機関卒業者とあなたの相違点を感じたことはありますか。

高専に比べて、特に劣っているとは思いませんし、優れているとも思いません。先ほどお話ししました博士のような人たちとは仕事の内容が違うので、あまり比較の対象とはならないと思いますが、彼らはすごく難しいことをやっているようです。

Q 職業訓練短大の専門学科目、実技科目、一般教養科目に関して何か希望がありますか。

一番感じることは、英語がちょっと弱いのではないかと思いますので、その辺を強化して頂ければ良いと思います。アメリカから人が来たときに、しゃべれなくてはいけないし、なにかトラブルがあればFAXで外国にも処理などださないといけないので、その点もやはり困ると思います。

Q これまでの仕事、また今後の仕事をしていく上で職業訓練短大をどのように評価されますか。

やはり、使える英語をある程度身につけられると良いと思います。

Q 後輩に学生時代こうした方がいいよというようなアドバイスがあれば一つ二つお願いします。

そうですね……。もし技術職につくのであれば、自分で回路が設計できて、電源だったら電源の回路を組める程度の学力は欲しいと思います。後は、語学でしょうか。

Q それでは、後輩ではなくて学校側にこうでなければということがあればお願いします。

そうですね……。あるかな……。

Q 先生を前にして言いずらいですね。

ははは……。やはり、あの、仕事の場合は実践がものを言うんで、理論よりもやっぱり実践の方が大切なと思いますけど。その点を強化していただければいいかなと思います。

Q ただ、職業訓練短大は普通の大学に比べたら実習だとか実験だとか多いのですが、それでも、もっと実技はあった方がいいと思いますか。

そうですね。

Q 学生時代は実技があるとレポートがあつていやだと言われるのですが、それは、学生時代はそう思っていて、今は実技が多い方がいいと思っているのですか。又は、学生時代から実技が面白かったと思っているのとどちらですか。

学生時代は、やはり、いやでしたけど、今となればやっぱり実技があった方がいいかなと思います。

Q あの名前（職業訓練短大）は良いと思いましたか。

名前は、やはり、もっと……………。

Q 今、職業能力開発短大と呼ぶようになったのですが、職業訓練短期大学校とどちらが良いと思いますか。

それは、やはり、前の方がいいですね。

Q それは、馴染みがあるからですか。

そうですね。

Q その他に、全体的に職業訓練短大というものに対して、こうあって欲しいとか、こういう風にやってくれたらというようなことはありますか。

そうですね、やはり、もっと、名前ができればいいかなと思いますけれども。

Q 有名になればということですか。

はい、そうです。

Q 有名になるためにはどうしたら良いのでしょうか。

そうですね、一つはOBが頑張ると言うのもありますけども、後は、後輩もやはり頑張っていていただかないといけないかなと思います。

Q 高校に対する大学の宣伝は行き届いていると思いますか。

僕ら高校の時は分からなかったので、それはまだだと思いますが。

Q 逆に会社側から職業訓練短大に対する認識度は充分だと思いますか。

今の会社ですと、他の短大（北海道短大）に装置が入ってますので、充分だと思います。

Q 例えば、何か、この際だから学校に対して言っておきたいことはありませんか。

別にありません。

Q 短大時代の先生に対しては何かありますか。

そうですね、仕事の仕方についていろいろ教えて頂いたもので、感謝しております。

- Q 特に、指導教官について、こんなことはいけないんじゃないかというようなことはないですか。
それは、ないです。

仕事のやり甲斐と自信について

- Q 将来にわたって職業人としての自信を十分お持ちですか。

そうですね、どうしても、先ほどの英語が気になります。仕事上どうしてもアメリカの人と話さなければいけないんですよ。そこで考えていることがうまく表現できないと、コミュニケーションがうまくいかなくなります。この辺が、ちょっと不安です。しかし、仕事のやり甲斐は十分あります。この分野の仕事は、非常に幅が広いので現時点では、まだ、全貌が見えていません。だからかえってやり甲斐があるのかもしれないですね。

未知との遭遇に期待しているようなものではないでしょうか。

(面接者：岡野)

B短大 電子科 S.63卒

K.K君 (男性 25才)

勤務先 F電子(株)

現在の仕事について

Q 卒業して何年になりますか。

卒業して6年目ぐらいになると思いますけれども。

Q 最初に、就職されたところがここになるんですか。

そうです。働いて足掛け6年目です。

Q 現在の仕事と、この会社に就職されたときのお仕事が、最初からずっと変わってないのかどうか、また変わっているとすれば、どのようなことをいままでやってこられたかというようなことを話していただければと思います。

入社する前、面接試験等を受けまして、社長には機械のメンテナンスとか、修理とか、技術関係の仕事をしたいということを話しまして、それで一応希望どおりの職種には今はついています。現にやっていることも機械のメンテナンスとかそういうものが主なものですから。

Q 機械のメンテナンスとはどういうことですか、主に仕事の中身を教えてくださいませんか。

こちらの会社は、心電計とか、医療機器ですね。後は患者さんの心電図を監視する心電モニターとかがあるんです。そういうものが主なんですけれども、そういうものが故障した場合にですね、使えないということになりますと、営業の方がその機械を引き上げてきて、そして、僕らがその機械を修理して、病院さんに返すという仕事です。それと、後、どうしても機械が引き上げられない場合とか、緊急を要する場合には、自分達が病院さんの方に行って、現場で修理したりしています。

Q そうすると、部門としてはどういう所属に。

技術課です。

短大教育について

Q 職場には、大学出とか短大出とかもいますでしょう。

ええ、でもほとんどが専門学校か、もしくは電氣的な専門学校とかいうところですよ。会社が医療関係ですから、医療関係の専門学校の方もいらっしゃるんです。

Q 医療科の専門学校といたしますと。

札幌だと、システムラボラトリー専門学校というのがあるんです、仙台の方にもそういうところがあるんです。

Q 短大の電子科ではいろいろなことを習われたと思うんですが、学校で習われたことが、実際の職場で生かされていると思いますか。

まあ、全部が全部とは思わないんですが、とりあえず学校で習ってましたから詳しくはわからないけれども、多少言葉を知ってますので、意味がわからなくてもそういうものがあつたなと思い出して調べたりすると、そこでわかったりするという感じですね。

Q 実習なんかは役に立っているんじゃないですか。

僕はそっちの方が役に立っているんじゃないかと思いますけれど。

Q どんな実習が役に立っていましたか。

やはり、回路の組立とか、半田付けとかいっぱいやりましたから、そういう実務的なこととか、オシロスコープの使い方とか、測定機の使い方ですね。そういうものが特にこの職場では生きるんじゃないかと思うんです。

Q 高度な回路設計よりも基本的なことですね。

そうですね、一応修理するにしましても、回路図をばっと見て、ここの部分でどんなふうになっているとか、詳しくはわからないんですけども、流れさえわかっているれば、あとは測定機を使って、追って行けば、だいたいわかるんじゃないかと思いますけれど。

Q もう6年経っていると中堅だろうと思いますけれど、やはり社内でもその辺の位置になってきていますか。

技術課には3人いまして、役とかはないんですけど、まあ、とりあえずは中堅くらいになると思いますけれど。

Q 今、会社の仕事をしてて、もっとこういうことを勉強しておきたかったというのはありますか。

僕の今の仕事でいえば、回路実習というんですかね、もっとそういうのがあつた方がよかったんじゃないかなと思ってますけれど……。

Q その回路実習なんかはどのくらいあつたんですか。

ええと、ほとんど教科書と黒板の講義でしたが、週に4回位は回路なんかを組んだりしたことはあつたかもしれませんが、もうちょっと多くやっていた方が良かったと思ってます。

Q 学校でやった課題というのは、例えば回路計とかデジタル、そんなもんですか。

一応、デジタルもアナログもやってますけれど、それをもうちょっと広げたやつをですね、実習に即したやつをやらしてもらえばと思います。

処遇について

Q 転職もされてないということなので、この会社に自分が合っていたということになりますね。

そうですね、内容的には満足していますね、給料とかは別としてそれはきりがありませんから、総支給額では手取りで18万ぐらいですかね。

Q その額は同じくらいの年の人と比べて、だいたい同じくらいとみていいですか。

そうですね。一応道内だったら、ちょっと高いといわれることもありますけれども。

Q 給与も短大出と同じでしょうか。

給与は専門学校と同じくらいかな。多分、同じ条件だと思いますけど。

短大入学について

Q 専門学校の授業料は高いんでしょう。

専門学校の授業料は、行っていないから分からないんですけど、年間百万はいかないかもしれないけれど、でも結構かかるんじゃないですかね。

Q その点職訓短大は安いですね。

確かにすごく安かったですね。

Q これ高かったらどうします。

職訓短大高かったらちょっと考えますね。また、そこがいいと思うんですけど。

Q 魅力の一つですね。

まあ、安いというのもそうだと思うんですが、少人数制というのものもあるかもしれません。

研修について

Q そうすると、専門学校よりは実技に強いということですか、実践的なことですね。多分そういったことが評価されているんでしょうけれども。

例えばですね、医療の関係の専門学校出と、電子の専門学校出とが一緒に仕事するわけですよ。そうすると、接点では両方が一緒にならないという部分がありますよね。

やはり、機械を修理してましても、電気のことばかり知っていればいいというわけでもないですし、人間の体のこととか、そういった方面の電気部品のことも分かってないと駄目な場合がやはりあると思うんです。

Q そうすると、そういう部分はしています。

そういうのは、会社に入ってから基本的なことは研修がありますからそこで教わります。本社の方の研修に、1カ月とか2カ月とか行って教えてもらいます。

Q それは電子を専門にした人は医療の関係の研修を受けるということですか。

そういう訳でもないんですけど、誰でも必要があればということですね。

Q それは一通りみんなが同じものをやるという、ことですね。

そうです、出ている学校の分野が違って、やる内容の研修というのは同じですね。

Q その1カ月ぐらいというのは、それは導入の時期ですね。

まあ、最初に入ってすぐですね。

Q それでは、入ってから何年か経ってからは又何かの研修とかがあるんですか。

僕の場合は技術をやってますから、本社の方で毎年技術の講習をやっているんです。機械のメンテナンスの講習とか他にサービスも対象にしていますから、営業の方は行かないんですけども、毎年そういうのが1回ありまして、会社で3人いますから毎年僕が行くという訳ではないんですけど、順繰りに行ったりしています。内容は新しい知識ですね、新しい機械とかでますから。

Q 本店はどこにあるんですか。

東京です。支店は全国各地にあります。

Q かなり大きい会社なんですね。で、どのくらいの規模ですか従業員は。

従業員は全部合わせて何千人位じゃないですか。4千か5千、その位ではないですか。詳しく分からないです。

Q 毎年、ここでは短大の人をとっていますか。

とっているみたいですけど、僕はたまたま北海道販売でしたけれども、一応内地の方にも東京の方とか、横浜とか、いろいろな販売会社があるんです。だから、そっちの方を受けられる方も中には結構いらっしゃるんじゃないかと思うんです。自分の同期でも横浜の方のF電子で働いている人もいますけれど。

(面接者：石橋：江後)

C短大 電気科 S.63卒

A1 ; J.K君 A2 ; H.H君 (2名同時面接)

勤務先 H工機エンジニアリング (株)

就職について

Q ご出身はどちらですか。

A1 ; 私はH市です。

Q じゃ、もう地元ですね。KさんはH市からC短大にも通っていたんですか。

A1 ; ええ、1年のときは自宅から通っていたんですけども、2年になって寮に入りました。

Q 会社には自宅から通勤しているということですが、どのくらいかかります。

A1 ; 朝は50分位ですね。

Q Hさんは。短大までは自宅から何で通学しましたか。

A2 ; 車ですね。10分から15分くらいですね。

会社にも車で通っているんですけど、13分くらいですかね。歩いても25分から30分そのくらいです。

Q Hさんの場合は、この会社にした理由と、決めた理由に影響を強く与えた人はいますか。

A2 ; 会社を決めた理由は、本当はTタキロンに行きたいと思っていたんですが、父がH工機に就職してまして、社内で話をしてくれたのです。そうしたらエンジニアリングの方を進めて下さったという関係で試験を一応受けましたけれど、ほぼ大丈夫だという話になっていました。タキロンの方が魅力的だったんです。

電気主任技術者第3種や、電気工事士など在学习中に取った資格を生かせると思ったんですけど。やはり、学校で習った事が生かせるという事ですので……。

Q 自宅から通えるとか、近いと言うのは考えなかったですか。

A2 ; それは魅力でしたから一応は父も声掛けてどうなのかなと、聞いてみってくれるという話はしたんです。それにH社という看板も魅力でしたし、安定感もありました。

私は、弱電よりは強電関係の送配電とかをやりたかったのです。いままで学んできたことを生かせる職場にということで、いろいろ考えました。定年後は向こうに家を建てなくてはいけなとか、考えたんですけども、父の顔を立てるといえるのか、いろいろ動いてくれた人の顔を立てて、こちらになった訳です。

Q もっと大きな会社でやりたかったとか、いや、もっと小さい会社の方が何でも自分でできるということは会社を選ぶ基準にはなかったですか。

A 2 ; それは、メリット、デメリット両方あると思うんです。この会社の場合は、創立10年で、入ったときは5年目、まだできたばかりの会社といってもいいでしょうし、まだ秩序がとれていなくて、何でも、大きな会社はこうなのに、この会社はこうなのか、と思うときもあったんですけども、大きな会社では設計者がやりたい事ができないという事もあるし、小さい会社ならこういう事もできるのかなというそういう判断もあって決めました。今は非常にやりがいがあってやっているんですけども、ただこの先、相当努力していかなければ苦しいなというのはあるんです。

現在の仕事について

Q その辺ちょっともう少し詳しく聞きたいんですけど。

A 2 ; 今やっている事は、エンジニアリングという設計業務ですが、会社自体には独自の自社製品を持っていません。しかし、これがわが社の製品だという物を持つと、社内では一生懸命いろいろな事に手を出しているんです。

私が一番この会社に入って落ち込んだのは、自分の立場が設計補佐なんです。親会社の担当者が、私たち社員の能力を一緒に高めていって、その上自分らのメリットに成るようにという考えをしていないんです。今自分が書いている雑用をただ単にこなして欲しい、そういう考えを持っている担当者からの仕事をやっていては、その人は伸びません。そこでストップしたままです。この体制が少しでも変えられないと、なかなか、ベテランと新人の技術、知識がイコールにならないという事です。今ベテランが持っている能力イコールこれからの新人がその年代になったときに、その力があるかといったら、そうではなくなってしまうわけです。だから、技術力をより高めていくためには、やはり、勉強も必要なんですけれども、失敗も学べるような環境にいないという事に問題があるかなと思うんです。

Q 設計の主となる核心部分についてはH工機の担当者がやるから、後の周辺の雑用みたいな事をHエンジニアリングでやれと言うことであれば、この会社と言うのは、ここでやっている人達はやりがいだとか、意欲というのがなくなるかもしれないと言う話ですね。自分の夢というか、これからの人生考えられないですよね。

A 2 ; それで自社製品として自負できるものを開発しようとしてやっているのが私の部門なんですけれど、そういう部門は1部門しかないのです。

Q ところで、この設計の仕事の違いを教えてください。

A 2 ; 私は第1設計部で、主に電動工具関係で、プリンター、電動工具、精機設計等3つを対象としています。その中の電動工具関係の仕事をしているんです。

Q 設計・開発のような部署もあるんですか。

A ; 2 開発の部署もあります。ある部分を請け負って設計・開発します。今までは、どちらかと言うとトレース業務だったんですが、最初は、図面に名前が載らなかったんですよ。H工機のエンジニアリングの製図だけなので、我々の真剣味がだせないんですね。プライドもないですし、真剣味もないんですよ。その書いた図面に対して責任をとるのが書いた人でなくて、頼んだ人ですから。でも今は、改善されました。その面に関しては非常にいい事だなと思うんです。

そうするとやりがいがありますね。間違ってたらずいだけれども、それは自分のせいだと割り切ることもできますし……。やりがいのある仕事。給料が多いとか、そういうのもありますけど、その前にこの会社でずっとやって行くにはやりがいのある仕事見つけなくては行けないですね。今の所は、お金の面よりはそういうやりがいのある仕事を求めていると言えます。

短大教育について

Q 質問を変えて短大のとき、学生時代のときに学んだものはどういう形で役だっているかをおたずねします。

A 2 ; 私、電動工具の担当なもので、結構モータを扱う機会が多いんです。学生の時も、実習でモータとか作った事あるんですけど、よく実習とかやればモータの構造が分かるようになりますので、とても役だっています。また、いろいろな報告書を書く機会が多いんですけど、そういう面では学生の時に多くのレポートを書いた経験が生かされているような気がします。理論も必要なんですけれど、シーケンス制御実習、電気工事の配線なども役立っています。私達なんでもやります。トランスを作る技術、モータを回す、巻線をどうするという知識、シーケンスの知識も必要であって、学校で学んだ事で役だったことは多いですね。ただ、レポートの書き方に関しましては、ここでは役にたたないです。ここでは一枚ですべてが分かるという方法を採用しているからです。短大でのレポートというのは枚数を重ねればよいというようにしてきたので……。

最近入社した若い人を教育することがあるのですが、トランスをどうしたらよいのかとか、高圧放電とか、そこら辺の知識は非常に重要だと思うんです。今、新人で他の学校の電子科を卒業してきた人ですが、「単相三線式」という言葉が分らないんです。「それってなに？」と言う世界なんです。強電はパッパパラパアなんです。そういう人が増えています。確かに電子回路は電子回路、まあ、そこに5ボルトいれればいいんですけど、その先がわかんないんです。

Q 短大でいつも議論するところなんです、広く浅く常識的なところをさっとやりながら、時間があれば少しずつ深めていくというのと、狭い分野について深くやるのとどちらが有利と考えますか。

A 2 ; 広く浅くがいいんですね。そんな事も知らないのかと、いいたくないんですけど、全然知らないで来る人もいます。漠然とでもいいからこういうもんなんだということを理解しておいてほしいですね。理論は、深く入らなくていいですから……。それに、学校にいるときには必要ないと思った、ガス溶接実習、これもいい経験になりました。訓練というのはどうも臭くて、入っているときもやだったんです。だから他の専門学校ではやらないのになぜこういう事をやらなくてはいけないのかと思ったんです。自分としてはきれいなイメージで理解しようとする気持ちが強かったので、訓練という名前自体がやなののに、こういう事をさせられて不満が強かったです。だけど、今では他の専門学校をでてきた人が頼りないだけに、自信を持って居られるんです。

Q やっぱり名前からくるイメージよくないですか。

A 2 ; よくないですね。私達は理解しても、まだ他の人達は理解していないですから……。訓練校というのは、中学出て高校は出てないと思っていますよ。私達がいくらがんばって、あの優秀だと言っても、中学卒なのによくがんばってるなと、そういうイメージでしかとられないんじゃないですかね、もしかしたらね。

Q 高専とか専門学校卒業してきた人と、職業短大と何か特徴的なものを感じることがありますか。

A 1 ; 漠然としてですけど、会社に入ってから役立つというのは、うちの方が役立つと思うんですけど、会社全体の仕事を見て、例えばソフトウェアだけをやるんだったら、専門学校卒業の方が中身が濃いと思うんです。でも全般的にやりましたんで、どの会社に入っても応用がきくというそういう感じがしますね。

Q 同期の人や友達を見ているとそんな感じがすると言う事ですか。

A 1 ; ええ、私1回会社を変えているんです。今の仕事とはちょっと異なる事をやっていたんですが、今の設計の仕事でもある程度できるという事は応用がきくんじゃないかと思っています。

研修について

Q 定期的に研修を行っているとか、それに補助金を出してもらっているとかありますか。

A 2 ; 専門的な事に関しては、一定期間の通信教育を受けて修了すれば会社からの補助金ができるようになっています。例えば、産能大学の行っているシーケンス制御のようなコースが対象になるのです。

Q H社の専門講座というのはどこでやっているんですか。

A 2 ; H社の本社が計画して、I工業専門学院とH工業専門学院の先生方が、本科生といわれる私達も教えるし、空いている時間には、1週間の講座を合間合間にやっているのです。ですからその先生方にとっては、フル稼働ですね。大体1週間くらいの講座で13万から18万円くらい費用がかかるのです。

Q 研修は、希望すれば随時受講できるのですか。それとも年に何回とか。

A 1 ; いえ、希望すれば今殆ど、受講できます。今どこの事業所も上司に行けと言われて、行きたくない講座に来てるのがあるんです。講習が終わると、自分が得た知識を人に説明する、説明ができれば覚えてきた事です。そういう事で、30分位の報告会をやるというのがあったんです。

転職について

Q 前の職場に居たときの知識は今役だっていますか。

A 1 ; すべてが役だっているとは思いませんが、役だっている部分もかなりあると思います。例えば、前の会社は、電気設備の会社だったんです。ビルの屋内配線をやっていました。ただ、就職の時の条件、待遇が入ってからとだいぶ違い自分自身は頑張ったつもりですが、最終的にはその会社を辞めました。残業もあるんですけど、決まった金額しかつかないんです。会社の愚痴になってしまうんですが、休みも月2回くらいだったんです。土曜日もちろん休みでないし、日曜日も月2回くらいしか休めませんでした。会社のパンフレットには各週とかいろいろ書いてあるんですけど、パンフレットと現状はかなり違っていたのです。

最初の電気設備の会社には、1年ほど勤めました。退社したもう一つの理由は、こちらが実家で私は長男なのでいずれはこちらに帰ってこなくてはいけないと思っていました。そういうことがありまして、こっちの会社を探したり、いろいろと友人に聞いてたりしたんです。そしたら、この会社に短大卒の同期のH君が就職していて、「まだ中途採用でとっている」というので会社訪問したわけです。

Q 短大の担任の先生には連絡しましたか。

A 1 ; 恥ずかしい気持ちもあり、連絡しませんでした。1回辞めてしまったことが、本当は推薦してもらった前の会社で仕事を続けたかったし、辞めたからまた違うところを見つけてくれなんて頼むのが、恥しいというか情けなくて……。今から思うと短大の先生方にアドバイスを仰げばよかったんでしょうけど……。

Q その判断結果的にはどうでしたか。自分ではよかったと思いますか。

A 1 ; ええ。

仕事のスタイルがガラッと変わりました。これまで電設とか配管のいわゆる暑さ寒さの厳しいところで仕事をやってきたわけですが、今度は椅子に座ってネクタイしての仕事で、体力的な辛さという点からは、かなり解消されました。

(面接者：尾崎)

F短大 生産機械科 S.63卒

S.H君 (男性 25才)

勤務先 U公害研究所

就職について

Q 初めて勤めた勤務先と卒業した短大の距離はいかほどですか。

東京ですから、F短大から約50Km、実家はI市なので、さらに30Kmほど遠くなります。

Q 最初の就職先を決定した理由は何ですか。また、決定にあたって影響を与えた人はいらっしゃいますか。

自分自身が自動車関係が好きだったので、また、研究関係の仕事につきたかったけれど、トヨタや日産のような民間企業に入ったのでは研究関係の仕事につけそうもない。ですから、公務員を選びました。

Q 卒業後、初めて就職した勤め先はどちらですか。その勤め先の仕事の内容、従業員規模、仕事の教育訓練に関する講習会の受講の有無と内容・形式、満足度等について聞かせて下さい。

ここ（交通安全公害研究所）に入って、ずっとここにあります。会社の規模は、親方日の丸です。この研究所内での研修は全くありません。ただ、公務員として採用されたときに、一般的な研修が数日間ありました。

現在の仕事について

Q 現在の勤め先の従業員規模はどのくらいですか。

公務員ですから、すごく多いと思います。正確な数字は資料を調べてみないとわかりません。

Q 現在の勤め先での身分はどのようなものですか。

技官です。技官にもピンからキリまでありますが、一番下の部類に属しています。

Q 現在の仕事に関して、職種名、仕事の内容、役職についてお聞かせ下さい。

職種名は運輸技官です。仕事の内容は交通機関に関する調査、および研究でして、役職は特にありません。

Q 現在の仕事に関する技術・技能・知識はどのようにして修得されましたか。

特に研修等はありませんで、自分で勉強するしかありません。また、仕事していること自体が研修のようなものなので、特に研修は必要とも思いません。

自分の道楽も含めて、夜大学に行っています。大学でやっていることが直接仕事に役立つとは思っていませんが、行かないよりいいと思います。いつか、役に立つのではないかと思います。

Q 現在の勤め先での技術・技能・知識のレベルはどのようなものでしょうか。

研究所ですから、一般的に言ってレベルは高いと思います。短大でやったことだけでは歯が立たないという意味ではなくて、あくまでも一般論です。周りには一流大学の大学院を出てきたような人もいっぱいいますが、そういう人たちも「大学でやったこととはあまり関係ない。」とよく言っています。

Q 現在の勤め先での職務的移動はありますか。

まったくありません。

Q 将来にわたって職業人としての自信を十分お持ちですか。

好きで選んだ仕事ですから、ずっとこれでやっていこうと思っています。特に、自信満々ということでもありませんが、何とかやっていけると 생각합니다。

Q 現在の仕事に対してやり甲斐を感じていますか。

好きです。だから、面白いと思っています。もっと、責任のある仕事ができるようになったらいいと思いますが、まだまだ時間がかかりそうです。

短大教育について

Q 他の教育機関卒業者とあなたの相違点を感じたことはありますか。

文部省の大学を卒業した人と比べて、特に劣っているとも、優れているとも思いません。ただ、文部省の一流大学を出てきた人たちは数学や英語が良くできると思います。これは、短大が悪いということではなく、入試の時にもう明らかに差が付いているのだと思います。

Q 職業訓練短大の専門学科目、実技科目、一般教養科目に関して何か希望がありますか。

特に希望はありません。ただ、もう少しカッコいい名前の短大だったら良かったと思います。

Q これまでの仕事、また今後、仕事をしていく上で職業訓練短大をどのように評価されますか。

一般的には、「基礎力を充実して欲しい。」と言うのですが、学生時代は基礎力の重要性について認識がありませんでした。もし、私がそう言って、大学が変わったとしても学生は、私の学生時代と同様に重要性を認識していないと思いますので、無駄だと思います。

(面接者：岡野)

F短大 生産機械科 S.62卒

N.K君 (男性 26才)

勤務先 G電気 (株)

短大入学について

Q 職業訓練短大への入学を決定するにあたって何か印象に残っていることはありますか。

短大に入学したときは、「この学校は設備もいいし、内容も充実しているからこの学校にきました。」などと言っていたんですが、本当は担任の先生に勧められたので職業訓練短大に入りました。先生に勧められるまで、F職業訓練短大の存在は知りませんでした。

現在の仕事について

Q 卒業後、初めて勤めた勤務先と卒業した短大の距離はいかほどですか。

F短大からは30km位だと思います。僕は群馬の出身なので、家からだとも10kmちょっとなので通勤は非常に楽です。(車で通勤)

Q 最初の就職先を決定した理由は何ですか。また、決定にあたって影響を与え人はいらっしゃいますか。

短大の時の指導教官に進められてここにしました。家から近いことと名前が良く知られている会社だったので……。この会社はパーソナルコンピューター(PC-9800シリーズ)の開発、製造を行っている会社です。従業員数は800人程度です。研修は入社してすぐに新入社員教育が2週間程度ありました。それから、2年目に入って1年間本社(N電気)に出向しました。この出航は単なる出向ではなく、研修を含めた出向です。W電気のコンピューター事業部に行くと、そこで、設計や製造、品質管理などについて勉強してこることも大きな目的の一つになっています。

Q 現在の勤め先の従業員規模はどのくらいですか。

700人程度で、300人が技術、200人が製造、200人が間接です。私は技術系の品質管理を担当している技術職です。

Q 現在の仕事に関する技術・技能・知識はどのようにして修得されましたか。

先ほどお話ししましたN電気への出向が一番大きな修得場所ということになると思います。ただ、仕事をしていることが一番の勉強となりますので、毎日の職場が技術修得場所なのかもしれません。会社に入ってしまうと、仕事が教育訓練そのものになってしまうので、かしまって教育訓練と言われてもなにが必要なのかわかりません。

自主研究のようなものを行っている人もいますが、内容はカルチャーセンターでやるような内容で、どちらかといえば趣味のようなものです。自分は、そのような時間があるならドライブをしている方がずっと楽しいので、特に受講していません。

Q 現在の勤め先での技術・技能・知識のレベルはどのようなものでしょうか。

パーソナルコンピューターの開発競争は、ものすごい勢いで進んでいますので、知識や技術も高いレベルのものを要求されます。ただ、このような高い技術を本で勉強するわけではなく、毎日の仕事の中で徐々に身につけていくわけですから、普段はレベルが高いとか、低いとかについてはあまり考えたことがありません。

短大教育について

Q 他の教育機関卒業者とあなたの相違点を感じたことはありますか。

周りの社員に比べて自分たち（職業訓練短大卒業生）が特別であると感じたことはありません。職業訓練短大にいたのは27年間の人生の中でたった2年だけですから、そんなに違いは出てくるはずもないと思います。

Q 職業訓練短大の専門学科目、実技科目、一般教養科目に関して何か希望がありますか。

一般教育科目については、やらなくても良いと思います。なにかをやったことは覚えていますが、どんな科目でどんな内容だったかはまったく覚えていません。一般教育科目をやる時間に実習とか卒業研究をやった方が良かったのではないかと考えています。

Q これまでの仕事、また今後の仕事をしていく上で職業訓練短大をどのように評価されますか。

特にありませんが、卒業研究の時間に仲間と論議したことが何となく仕事に役立っているような気がします。

仕事のやり甲斐と自信について

Q 将来にわたって職業人としての自信を十分お持ちですか。

マンネリ化して自信などについて考えたことはありません。これは、私だけではないと思いますが・・・。

素晴らしい仕事をするようになれるとか、社長になれるというような自信はありませんが、ふつうのエンジニアとして仕事をやっていく自信はあります。

Q 現在の仕事に対してやり甲斐を感じていますか。

やり甲斐についても考えたことはありません。毎日義務というか、習慣というか……。ただ、仕事が嫌いではありません。これといってたいしたことをやっているわけではありませんが、自分でやった仕事がコンピューターになって世の中に出ていくというのは非常に気分のいいものです。少なくとも、もっといいコンピューターを世の中に出していきたいと思っています。

（面接者：岡野）

I 短大 生産機械科 H. 3 卒

Y. K 君 (男性 23才)

勤務先 K工商 (株)

短大入学について

Q Kさんがこの会社に就職した動機は何でしたか。

今年で4年目になりますが、地元の企業であることを中心に会社を選びました。実は短大入る時から地元就職するつもりで短大に行ったのです。私は長男ですし、いつかは戻ってこなければいかんという事もありましたので……。県外に出た場合でも戻ってこれるというのならいいんですが、辞めて戻ってこなければいけないという事態があるかもしれないということを考えると、はじめから地元就職できれば良かったという事です。

Q そのために地元で就職が出来るという事が学校選択の理由になった訳ですね。地元就職したいという人多いのですが、そのために学校を選んだというのはめずらしいですね。

県外の大学を卒業しても地元で就職できないのかといたら、できん事ないんです。でも地元の学校の方がしやすいかなと考えました。素人判断ですが……。

Q それはあたってると思います。もともと地域の産業に寄与するという事が、学校の目的である訳ですから……。学校としてはそうなんだけれども、しかし受ける人がそこまで考えていたかという、それは珍しいことですね。

もともと技術関係に進みたかったんです。

Q 技術のどういう事をやりたいと思ったのですか。

とくに電気関係に進みたかったんですが、電子がなかったんです。機械とか、金属、その中で、機械だったら幅広く、一つ一つ浅いかもしれないが、幅広く、機械もやりコンピュータもやり、電子もやれるという話をチラッと聞きまして入学しました。

短大教育について

Q そうすると、入学する前に短大の教育というものはどういうものだという事は分かっていたんですね。

ある程度、聞いてましたが多少ギャップがありました。

Q それはどんなギャップでしたか。

その前に他の大学と言うもの見てみようと思って、県外の大学なんですけれど、11月に受験したんです。大きさ的にもそんなに大きくもないし、今の新棟がなかったですから、施設の不安と言うのありました。でも小さい事がプラスになってる事もたくさんあるとわかりました。少人数制で、教えてもらって。

Q 今、卒業されて、外から短大の教育を見た場合、他の教育機関に比べて特色があったと思いますか。

他の教育機関のことは分からないですけど、やはり、先生とのコミュニケーションは他に比べてあるんじゃないかと思います。まあ、教育的にも大きい部屋でひとりの先生が上に立って、というよりは、ひとりひとり気を配れるというか、分からない事は、聞き易いという雰囲気はありました。そういうふうに先生との接触がありましたから母校意識もあります。今でも会社が休みのときには行ってます。そういうつながりがあるから“能力開発 세미나”なんかでも受けに行こうかという気にもなるのです。私は在学中にオートバイ事故で3ヶ月程入院していて少し単位が足らなかったのです。そのため3年目は週2〜3時間の授業に1年間通ったんですけど、あいてる時間に先生の部屋に、いろいろ話に行ったりしまして、他のみんなができなかった過ごし方を経験しているのです。そのおかげで今も先生と交流があるんです。卒業する年に、そうなってしまって、みんなが卒業した後で、1年残ったんですけど、3年目の方が有意義に過ごせたというか、この先生はこういう人だったのかと改めてわかりました。

Q いい経験しましたね。当時受けられた教育のカリキュラムと今はずいぶん違ってると思うんです。当時の事を振り返っていただいて、こんな事があったらいいというような希望はありませんか。

2年しかないのだから仕方ない事なんでしょうけれど、一つ一つにかけれる時間、とくに実習で作業したりする時間がすごく短かった。中途半端というか……。実習にもっと時間かければよかったと思います。

現在の仕事について

Q この会社へ入社して4年目ですね。今日までの仕事についてお聞きしたんですけども……。

汎用機械を用いた機械加工です。主には、マシニングとか、ワイヤーとかそういった機械を使って金型をつくる仕事についています。つくる金型はいろいろあります。電気関係の端子の部品とか、フレーム関係、電気関係の基盤とか、最近では樹脂を流し込む関係の仕事もやりました。

今の職場は生産機械課の精機係汎用グループで、かな型、ワイヤー、マシニング、汎用の三つのグループがあるんです。僕は汎用のグループにいます。

Q マシニングと汎用グループに大きな違いがあるんですか。

マシニングというのは主にプレート関係、穴あけとか、エントリング加工をやっていて、僕らがやってるのは、パンチとかイレコとか、そういうの小物の加工をやってます。

Q そうすると短大で学んでこられたカリキュラムの内容とはかなり類似している仕事と言えますね。

そうですね、学校の実習でやったような事を主にやっていますが、それでも会社に入ってから戸惑いはありました。学校でやったのは主に旋盤加工なんですけれども、旋盤加工は会社にはないのです。会社ではフライス盤で加工する事が主体ですが、学校ではフライス加工はあまりやってなかったんです。そういった点で初めて触るという感じでした。

Q Kさんのグループは何人ですか。

汎用機械の汎用グループですけど、4人です。3人は僕ら位の20前半の若い人間で、後ひとり、もう60過ぎた、定年後、勤めてる人です。そして、3人のうち2人は短大卒で、ひとり、コンピュータの専門学校をでてます。仕事はとにかくやって覚えるという形です。僕が指導するときもありますけれど……。

研修について

Q Kさんは4人のグループの中で、責任をもたされてやってるわけですね。

まだ、そんなに、自信があるわけではありませんけど、例えば上から、こんだけのもんをいつまでにやっておいてくれといわれれば、細かな振り分けをしたりします。

そういう仕事をやっていると新しい知識や技術学びたいなと思うことがあります。つい最近ですけど、短大の公開講座を先生の方から受けにこんかというような誘いがあって受けましたが、そういう機会があればちょいちょいってみたいという気持ちになります。

新しいことを覚えるということは、やってても楽しいですから。

Q 楽しいですか。

そうですね、会社で3時間過ごすより、学校行って3時間の方がすごく短かった。

Q 他にはそういう研修にでられた事ありますか。

ないです。そういった機会があればってみたいですね。

(面接者：富田)

I 短大 金属成形科 S.63卒

H.T君 (男性 25才)

勤務先 K工商 (株)

現在の仕事について

Q Tさん何期の卒業ですか。

6期です。入社して6年目です。

Q 今の仕事は・・・。

3人でチームを組んでやってます。ひとはプログラムの女性の方、一人は後輩です。具体的にいいますと、図面がまず送られてきて、材料はいつ頃できるからいつまでにプログラムして、選択をして準備します。図面の分からないところを問い合わせしたり、内容を説明したり、プログラムを説明したり、また自分で機械を加工したりします。大変ですけど、予定を組む仕事をまかされているという感じになってますから、一応は楽しみながらやってます。

短大教育について

Q 短大を卒業して、よかったと思われませんか。

よかったと思っています。卒業しても、それで終わりという話でなしに、先生のところに遊びにいったときには、分からない事が聞けますし、また公開講座があったときに、興味のある事なら受けることができますし、いつでも時間が空いたときに、ちょっと寄ってみようかと思っています。自分にプラスになることですので……。

Q いまかりに、短大に入学してみたいなと言う人がいて、相談されたとすれば、Tさんならばどんなふうに助言されますか。

それは、大学で何をやりたいかということをよく聞いて、助言することになるでしょうね。その場合、自分の経験によって話しをするのはもちろんですが、まあどちらかと言えば進めてあげる方でしょうね。

Q どう言ったところを評価して人に進めることになりますか。

やはり、他にはない少人数制ですね、それと設備です。あれだけの設備のある学校といったらそうなかなか近辺にはないと思います。

Q それでは、職訓短大の特色と言うのは、なんだと思っておられますか。

どちらかと言うと、現場作業というものが多かったようなイメージがあるんです。力学とか数学とか物理とかのイメージよりは旋盤使ったとか、他の機械を使った作業というイメージが強い。即実践で使えるという勉強です。

- Q 生産の現場に近い雰囲気があったと言う事ですね。そういう教育は、今の仕事の中でよかったと思われますか。

僕がこの会社入った感じではあったと思います。しかし、僕らの時代には、コンピューターを学ぶ時間はなかったと思います。今の短大はコンピューターの授業をやってますけれど……。これからは、CAD、CAMの勉強は必ず必要だと思います。

- Q 職場も変わってない、転勤もない、職場の中での移動も比較的少ないという事で、珍しいケースだと思うんですが・・・。

一応今のところ会社も安定してますし、機械も変わらないので今の仕事を完ぺきになるようにやっています。

- Q 今の仕事と、短大の教育の関係なんですけれど、今の仕事やる上で、短大の教育はよかったなと思うことがありますか。

2年間という短い時間でいろいろやらなければならないですけど、コンピューターの勉強をもっとやりたかったと思います。学校にいろいろ機械あったんですけども、使ってない機械というのもあるんです。見ただけで使い方の分からない機会が沢山あるのです。この会社にいる先輩の話を聞いてたら、授業の内容も変わってるんですね、コンピュータ、汎用機械、自動機など全部一応やりたかったです。

長くやればいいというものでもないですけど、その機械に触る時間がもっとあればいろんなことが経験できます。

(面接者：富田)

J短大 電子機械科 H.1 卒

Y.K君 (男性 24才)

勤務先 S工業 (株)

就職について

Q 会社は自宅とどれくらい離れてるんですか。

大体車で20分くらいですか。

Q S工業を選んだというのは、自宅から通えるというのも一つの理由ですか。

それもありますし、ボトリングというのに興味があったんで、そういう仕事やってみたいというふうに思って、一応S工業を選んだんです。

Q 会社では紙製品のパッケージもやっていらっしゃるんですか。

もともと、メインはボトルの方だったのが、社内の技術がこちらの方にも拡張したいということです。

Q 短大を卒業する前から、ここではこういう仕事をやってることはある程度分かっていたんですか。

そうですね、学校にパンフレットがきて、自分でもいろいろ見たり聞いたりして、大体どんな仕事か私には分かっていました。

現在の仕事について

Q 卒業して何年になりましたか。

今年で3年、来年で4年目になります。

Q 今はどういう仕事ですか。

僕は工作部で、工作機械を使って部品の加工をしています。

Q 最初からその仕事で、ずっと3年間やってらっしゃるということですね。どうですか、今の仕事は。

そうですね、今はちょっと仕事量が減ってきているかなという感じですが、でも仕事はやっていて楽しいですし、これからもどんどんいろいろ勉強していかなければと思っています。

私は最初ボール盤からでして、それから、けがきという仕事をやりまして、それが1年半くらいやったかな、それで今年の1月からは、汎用機械の旋盤を使ってやってるんです。

Q そうすると、さっき3年とおっしゃいましたね。3年の間には職場の中は変わらないけれども、仕事の内容は変わってきているんですね。

そうです。入ってからずっと一緒ということはまずないです。

短大教育について

- Q そうすると、学校で2年間勉強したものと、今の仕事というものは、ほぼリンクしている訳ですね。

そうですね。1年の時に大体汎用機械全般をやりましたんで、その汎用機械の経験が今は生かされていると思います。まあ、見たことのない機械とか、触ったこともない機械とかそういうのもありますけれど、機械加工に関する切削条件とか、そういうことは大体やってきたこととあまり変わらないので、後は応用できれば、そういう機械も徐々に使いたいと思ってます。

- Q すると、そういう仕事と学校でやったことが大体あってるということになるが、ある意味ではプラスだね。K君の職場では短大卒は君だけでしょか。

いえ、情報処理科から一人。彼は製造で組立をやっています。

- Q ほかに、専門学校とか、高専とかそういう卒業生いますよね、K君の場合は短大でやったことが即仕事に結びつくということだけれども、他の人達はK君から見てどうですか。

結構普通高校からうちの職場に入ってきた人がいるんです。しかし、そういう人達は大体はすぐに戦力になるわけじゃなくて、3カ月ないし4カ月は職業訓練校ですね、そこで技術を学んで、やるというふうになってて、新入社員として入ったら、まず最初は簡単なボール盤から入りまして、徐々に旋盤とか、フライス盤とか自分のやりたい仕事とかが段々に出来るようになるんですけれども。

- Q 職訓短大でできた卒業生というのは、K君から見て高専とか、専門学校からきた人達とはどこか違うなという感じがしますか。

そうですね、僕の感じからすれば、職訓短大卒の人はあまり上の人にはいい印象ないのかと思うんですけど、でもそんな大差はないと思います。

- Q 自分としては職訓短大を卒業してきているから、これは一つ頑張らなくてはいけない意識はお持ちだと思っただけで。

自分が頑張らないと、後から入ってくる後輩にも影響でると思うし、自分が頑張ることでもた後から入ってくる人もそういうふうに思われるように頑張ってもらいたいと思ってます。

- Q そうすると、今の仕事の中で自分が短大で学んだことをもっと生かしていきたいとしたら、どんなことを勉強したらよいと考えますか。

現在の仕事ですか、そうですね、自分の短大の2年間を振り返って見ると、2年の間には結構いろいろなことをやったと思うんです。でも、自分が今やってる仕事と関係ないことが殆どなんです。自分の今の仕事からいえば、あまりそうたくさんの教科をやる必要もないと思うので、少数の教科を集中的にやってくるのも一つの手だと思うんです。例えば、自分の科だったら、機械だから機械をみっちり2年間やるとか、というふうには思ってますけれど、自分の場合は、一応学校でやってきたことが生かされているんで、そういう面ではプラスになったと思いますけど。

- Q 短大で勉強したことというのは、どちらかというとそういう実習だとか、K君の場合には一番付加価値が高いというか、そういうことですね。例えば友達にいろいろ聞いてみて、職訓短大へ行ってみたいという人がいたときに、君だったらどうする、行きなさいといえますか。

ぜひ行け、といえますけれど……。

Q それは何がいいから行ってみたいらというのですか。

そうですね、やはり先生方も素晴らしい方ばかりでしたし、やってることもすぐ社会に通用することですね、人間関係では自分の場合2年間寮に入っていて、その友達に今もちょくちょく会って飲みに行ったりとか、そういう機会がありますし、そんなことってあまり出来ない経験だと思いますので、自分としては短大の2年間というのは貴重な2年間だったと今でも思っています。

Q 会社の中でも、短大卒はまだまだ少ないという話しですよ。これからはもう少しある程度のポストというか、それをこうしっかりつかみたいとこだね。

そうですね、自分も頑張っ行って行かないことには、後の人達もつながって行かないし、まだまだ自分がやってみたいこともありますし、自分ができることをやって行きたいと思っています。

研修について

Q 会社の中で、例えばもっと技能検定を受けなさいとか、研修を受けなさいとか、そういう指導もあるんですか。

ありますけど僕は技能検定はまだなんです。研修とかはよくあります。まあ、仕事にフィードバックするような研修ということになりますか。後は社会人としての人間の育成みたいな研修が殆どです。

Q 技能というか、技術というか、そういうのも時代と共に変わっていく必要があると思うんですけど、そのための研修もあるんですか。

それは殆ど自分で勉強するか、たまにですけど講師がこられるんです。例えばU社からこられたりとか、K社からこられたりとか、そういう講師がこられたときに自分から研修受けたり、研修を受けて自分で勉強する、そういった感じで勉強していくしかないです。

将来について

Q 将来的に、自分としてはどういう方向でやっていきたいという何かプランをもってますか。

将来の希望ですか、この会社には自己申告制というのがあって、自分としては一応設計の勉強をしてきたんで、設計の方にいきたいなという希望があるんですけど……。

Q 今のところは現場をやらされていても、それをきちっとこなしているということであれば、将来そういうところにいける道はあるんですね。

そうですね、今自分のしている仕事がこういう仕事だから、そういった仕事につかれた方は、そういう希望があると思います。自分の場合は、機械をメインにしていた方がいいんじゃないかと思っていますけれど。

処遇について

Q いま給料どれくらいもらっていますか。

その話は、他の会社の人とも話してないんですけども、安いです。それは短大とかのランクが安いからというのではなく、大卒も含めて全体が安いです。

Q 学校にきた求人票で、あれよりも安いということはないんですか。

あれは基本給できているんです。そこから差し引かれる額もでかくて、いままで総支給から6万から7万引かれるので、大体手取りで10万前後、残業しても15万くらいです。昇給は年1回ありますがやはり厳しいです。でも、うちの職場は楽しい職場ですし、そういうのもやはり重要だと思うんですけど。

Q 将来転勤ということも有り得るわけですか。

まあ、他の部所に飛ばされたりとか、そういうことはありますが、自分でここへ行かしてくれといって、行かれる人はまず殆どないと思います。

(面接者：坂本)

K短大 電気科 S.57卒

Y.M君 (男性 31才)

勤務先 F (株)

就職について

Q M君がこの会社に就職すると決めたのは、どういう縁でしたか。

まず、うちから2、3キロで近かったということ。あと地元で大きな企業といえば、A電力と、ここくらいしかなかったんで、順番からいって成績のいい人がまず北電を選びますから、残った何人かでもめて、結局私がここを選んだということです。

現在の仕事について

Q Mさんは、ここに勤めて何年目ですか。

丸10年目です。現場の方で電気関係の仕事をやってます。工作機械の電気部分です。設計どおりに図面が出来ていない場合、その部分を調べたり、設計の間違っているところを見つけたりする仕事で、動かしてみても、試験をして、お客さんに渡すまでが私の仕事です。

Q 今の工作機械の電気の仕事は、入社したときからずっと変わってないですか。

まあ、ベテランまではどうかと思いますが、中堅位には入ってきました。というか、私達の職場は年齢層がすごく幅広く、最近は一足上りみたいな感じで、ちょっと年の上の人がどんどんよその協力工場にいった関係もあるんだけど、そういう人がもう30何人かいて、残った人は上から数えた方が早いぐらいです。

Q 最初は工作機械とか電気の部分をやるといっても、短大ではやってないでしょう。そこら辺をどうやって覚えたのですか。

学校でやったのと全然違いますので、一つ一つ線のつなぎ方から教わったり、簡単な機械から入って動かし方を一つづつ習いました。ある程度ものになれば自分でやっていけるようになりますから……。

Q M君はこれから先、そういう技術的なことも勉強しなければ、というふうに感じているんですか。

いままでの経過からいえば、忙しさにまけてやっていないというのが実情で、もっと時間がとれればと思いますが、だいたい仕事の量は減っているにもかかわらず、まだ残業はあるし、時間がなかなかとれないという状態なんです。景気のよかったころは、むちゃくちゃやっているもんですから、とてもではないが、自分のことで何かしようという時間がとれるような状況でなかったんです。

Q 今後もこの仕事をやっていくのに、自分ではそこそこやって行けるという自身はあるわけですね。

ただ、私らの職場を見てると、45才くらいまでが限界で、それ以上になると、新しいものにもうついていけなくなるというそんな感じですね。ある程度年齢が上がって、例えば自

分が一段に上がって、下の人を使うようになりますね。そうすると、いちばん難しいところに触っていけなくなる訳です。上っ面しか分からなくなって、だんだん電気の難しいところから離れていくもんだから、45才を越えてくるともう仕事についていけなくなるという感じがします。だから年齢が上がっても難しい仕事をさせてくればいいんだけど、部下なんか使ったらそれが出来なくなるでしょうね。

Q そういう危機感もってるということは、自分としてはそうならないために算段を考えている訳ですね。

今は一番下のラインみたいなのにいるから、そういう一番難しいところを触っていただけるけど、実際に部下を何人が持ったときに、果たしてそれが本当にやって行けるかなという心配はあります。

Q 自分自身では、今やっている仕事に対して一番難しいところをやってるな、という仕事に対する自身がある訳ですね。

まあ、そうですね。ただ上にたつて、部下を使う能力が自分に備わってきて、また上に上がっていけるようなら心配はないんだけど、部下を使うのが下手だったということになると、今度はどっかに行ってくれということになるし、そうかといって年齢が上がって、給料が上がってるのに、そんな一番下において、難しい仕事だけやっておればいいというもんでもないと思うんです。給料が人より少し上がるんだから、やっぱり部下を何人が使って、それだけの仕事をこなしていかなければいかんと感じてます。

研修について

Q 短大でやったこととだいぶ違うことをやってきているんだけど、そういう仕事をやっていて、自分で勉強せざるを得なかったことも多かったでしょう。ところで社内の研修を受けるチャンスはこれまでにありましたか。

研修というよりは仕事を覚えるのはむしろ出張に行った時なんです。誰も助けてくれないという状況におかれると、自分で仕事を身につけんといかん、というのが実際です。

Q 結構失敗したこともあるんでしょうね。そういう時はどうしましたか。

やはり中には電気の部品を壊したりしたことはありますけれど、正直にいうしかありません。

短大教育について

Q 職場の仲間で工業高校だとか、普通高校でた人とか、大学でた人とかと比べて、短大卒はどこが違うと思いますか。

やはり、高専の方は5年間やってきてるから何か少し入ったときから違うな、という感じはしました。今、私は現場なんですけれど、後輩で高専の人の方がちょっといい図面書くな、という気はしますけど。入社してからの環境もあるんだろうけれども、能力もあるなという気がします。

Q M君は会社では工作機械の電気係りということだけど、短大で学んだ科目で、仕事に何か役だったというのがありましたか。

やはり理論でしょうね、基礎になりますから。しかし、モーター関係のことで、発電機の関係もやったけど、全然関係ない職業についたから、そこら辺は全く関係なかったと思います。

最近は、機械と機械をつないだりとか、データ管理をするようになって、パソコンがすごく必要になってきているので、パソコンが使えるといいかなと思ってます。当時はパソコンにふれる機会がなかったんですが、パソコンぐらい使えないようじゃ駄目だと思います。

(面接者：坂本)

L短大 建築科 S.55卒

S.K君 (男性 33才)

勤務先 K建築研究所

就職について

Q KさんがL短大を卒業して初めて勤めた会社は、どんな会社でしたか。

設計事務所です。

Q どちらにあるんですか。

今はもうなくなりました。渋谷にあったんですけど、社長はわりと年輩の方でしたから、一応引退してます。

Q そちらでどういう仕事なさってたんですか。

普通の設計事務所ですから、ビルとか、なんかの設計がメインでした。

Q 一番初めに就職するに当たって、案内が学校に来たから就職したとか、自分で探したとかいろいろあると思いますが。

その事務所に勤めるきっかけですか。それは短大の方にある先生がいらっやって、その先生の紹介ということで行ったんです。

Q 一番初めのその会社は、従業員の規模はどのくらいなんですか。

ちょっと不思議な事務所でした、組合形式になってたんです。設計事務所というのはせいぜい2、3人の所が多いものですから、2、3人の事務所を組織化したような、協同組合形式の事務所になってたんです。ですから、私のいた事務所は3人だったんですが、K設計協同組合というのは17、8人位いて、大きい仕事はその組合が受けているんです。それを分担という形で仕事を担当していました。

Q そこに何年くらいいたんですか。

4年くらいいたと思います。

Q そこから後は。

いろいろ経験しています。変わった事務所は5つです。

Q 大体このように設計する人は5つか6つくらい変わらないと、やはり腕がついていかないと言うことがあるんですか。

そういうことは絶対ないですね。私がいた事務所と言うのが、あまり経営的にうまくいかないという面がありまして……。

現在の仕事について

Q あちこち行った方がいろいろな分野が見られるので、むしろプラスになったかもしれませんね。

少しやっていくうちに、自分ならこういう方法でやった方がいいんじゃないか、というものが判ってきます。僕の場合は積極的に変わったということですけど、あまり人には勧められないです。

Q 現在は5人ですか。

そうです。出向の人もいますけれど。L短大卒ばかりです。私をいれて5人です。

Q 今は社長ですか。

一応代表取締役役ですから、社長ですが、でもそういう感覚はないです。私どもは民間の仕事が多いのですが、設計事務所というのは、わりと個人的な関係が多いですね。要するに建築家とかそういう所と関係がありますけれど、ただ、役所なんかの仕事を受けるには、必ず法人にしておかないとまずいというのがあって、売上げがある程度達成した時点で、法人に変えたんです。

Q 役所から仕事を受けるには、そういうことがあるのですか。

そうです。赤字ではまずいのです。法人にかえてこれで3期目を迎えます。

Q 建築士をおとりになったのはそういう勉強をしてですか。

ちょっと年数は忘れましたけれど、短大をでて、今年受けれるという時に受けて合格しました。5年くらい前だと思います。

Q 今どういう設計の仕事を、やっているんですか。

普通のビルが多いです。最初のスタートというのが、ランドスケープという都市計画なんです。いくつも事務所変わって、最後の事務所のI設計の社長という人が、私の先生なんですが、そこが住宅地計画というか、再開発をやっている事務所だったんです。そこに行ってその仕事を覚えて、それで独立して、それを最初にやったんです。ですから普通の事務所とは毛色が違うんです。それから少しずつ変わってきて、今やってるのは、景観設計ですね、だから別に学校で習っている訳ではなくて、そういった事務所で勉強させてもらったということです。

Q 学校ではこういうことは習わないですか。

一切やらないです。

短大教育について

Q 短大で色々勉強したと思うんですけど、現在の仕事で、一番役にたってるというのはどんな科目ですか。

今短大で、2時間講師を引き受けているんです。建築材料と、積算なんですけれど、卒業してどういふのがいいのかわからないと色々考えたんですけど、ないですよ、役にたつというのは。あえていうなら構造なんか僕は苦手ですから、そういうのは1級の試験とるとき、習ったときのノート見ながらやりましたから、それは一番役にたつと思います。学校では実務をやっている人の意見を聞くというのが少ないですよ。だから、役にたつというのはなかなかないのかな、という気がします。

Q 仕事としては、こういうランドスケープで納めるということになりますか。そこから先のいろいろな設計のところまではいかないのですか。

そういう仕事はそういう仕事で留めます。また別のは最初から最後までやりますから。大体大きいのは3つですね。集合住宅とか、ビルとか、個人住宅、後こういう再開発なんですけれど。今不況ですから、再開発の仕事は塩漬けになってるのが多いんです。

Q 短大の時はぎゅうぎゅう詰めの日だったと思うんですけど、今聞いてみると、あまりぎゅうぎゅう詰めではよくないということになりますか。

ええ、僕はちょっと詰めすぎではないかと思いました。今の学生の毎日の生活を見ていると、すごく追われているような気がするもんですから。

私が居たときは、それほどきつくはなかったんです。だから、もうちょっと自分でいろいろなこと考えたり、見たりする時間があったもいいんじゃないかと思うんです。

僕ら卒業するときに言われたのは、結局2年ですから中途半端で出てしまいますね、だから、やめてからでもどう自分でやっていくか、というところにゆだねられてしまう訳で、どっちみちみっちり詰めてやっても、のんびりやっても、本人の問題だと思うのです。

Q 短大の建築科をでたということで、最初勤めたところと、その2番目のところでは、仕事にどういうものを期待しましたか。

実際やってみると、全然使えない自分がよく分かりました。できなかったです。だから実務をやられている人の話であるとか、そういうの聞くのが一番いいと思うんです。建築といっても巾が広いですし、そういうのがあると刺激になると思うのです。

Q そういうのはなかったですか。

なかったですね。だから、僕はW大がどうしてああいうふうに強いのかといろいろ聞いてみたんですが、実務をやっている人を講師に呼んで来て授業やらせるのですね。だから、そういう時には、いろいろな角度で検討されたものが自分でだせる訳です。それがすごい違いかなと思います。

Q 資格があれば短大出でなくても、専門学校出であっても、要するにできるものはできる、ということはいえますか。

いえ、僕はそうは思ってないです。カリキュラムは専門学校と全然違うでしょう。だから、やはり違うと思いますよ。

Q どう違うのですか、専門学校でもだいぶ力をいれてますけれど。

やはり、そういう意味では広く実務というところだけでないところもやってるので、そういうのがいいと思います。

Q 学校でやってることは広いけれど、やっぱり必要だったことなんでしょうか。

もうちょっと、ゆっくりできるのもあっていいんじゃないかと思うんですけど、実際どういうものなのかということか分かりませんが……。

(面接者：石橋、江後)

A短大 電子科 H.1 卒

A.K君 (男性 24才)

勤務先 Nフレックス (株)

短大入学について

Q KさんはA短大の電子科を卒業したということなんですけれど、なぜA短大を選ばれたかを聞かせて下さい。

まず、高校は普通高校だったんですけども、電気の世界に興味がありましたんで、できればそういう専門の学校に進学をしたいな、というのが一番先にあったと思うんです。それと、自分の出身校が地元でしたので、できれば九州にいたいなのもありますね。それと、経済的な面もありましたし、一応国立ということで、ほかの大学と比べても、授業料等全然違うと思うんです。あと自分の学力と言いますか、そこら辺も検討しまして、先生からのすすめもあって受けました。

就職について

Q 卒業されて次は就職ということになりますが、就職にあたって、どんな所に就職したいということとを、どなたかに相談しましたか。

自分で決めました。学校に求人案内がきますよね、それ見て、できれば九州にいたいなと思いついて。外に行くのはそれほど抵抗があるわけではないんですけども、何社かピックアップして、そのなかであまり大きい会社でなくて、自分の知っている先輩もいるということで、最初S電気に決めました。

Q その先輩というのはやはり、職訓短大の卒業生ですか。

そうです。電子科ではなかったかと思います。Nさんといったかな。1期生なんですけどね。そこに1年勤めました。

転職について

Q そのS電気では、事業内訓練と言いますか、そういうなにかを受けられたんですか。

4月に入社しまして、正式配属が確か8月1日からだったと思うんです。その間の4カ月間は新入社員教育という感じで行われたんですけども、まあ、どっちかといえば、会社の概要説明のようなものでしたね。S電気の会社にどういう部署があって、こういうことをやってます、みたいな説明があって、入ってすぐの講習とかいうのはあんまりなかったように思います。

Q 8月から正式の部署に入っていくわけですね。どういう部署に配属されましたか。

S電気のなかに、マテハン事業部というのがあるんです。自動倉庫を管理する事業部なんですけれども、自分はその中のどっちかという現場の方ですね、機械屋さん和電気屋さんは当然いるんですけども、各地に出張して、そこで機械屋さんが機械を組み立てた後の電氣的調

整などの調整業務で、最後にお客さんに引き渡すまでをやっていました。

Q 現場作業と言うことで、結構出張が多かったんですか。

そうですね、大体、福岡にいるのが月に4日とか5日とか、それくらいですね。

Q そのエリアというのは、どの辺までになるんですか。

自分はそんなに行っていないですけど、本社が福岡で、工場もそこにあり、自分の所で出荷しているのですが、あまり、サービス網が整っているという態勢ではないんです。だから、全国どこでも行かなくてはならないですね。

Q その最終的な調整までやってくるのでは、出張結構長くなるんでしょうね。

2週間に1回は帰しなさいよ、という決まりがあるんです。それで、2週間出張して、帰ってきて、1日か2日休んで、また行くという繰り返しですね。

Q そして、その仕事を辞められたということですが、どうして辞められたのかその辺のところを聞かせていただけませんか。

できれば自分で初めからやりたいと、設計されたものを調整するのではなくて、自分で物を作りたいというのがまず最初にありまして。それと、生活ですね、やっぱり月に3日とか4日しか地元にいられないというのでは、ちょっと生活的にも落ちつかないというか、なかなか自分の余暇の時間がとりにくいんです。しかも土、日も休みではないし、そこら辺を考えてです。

Q その会社は1年半と伺いましたが、こちらに移られた時期というのは。

9月1日です。平成3年の9月です。

現在の仕事について

Q それで、今の仕事の内容ですが、どういうことをなさってますか。

メインは、シーケンサですね。PCとかのシーケンサを使った自動制御システムのハードの設計からソフトウェア設計など、いろいろあるんですけども、後は現場での調整をしてお客さんに引き渡すまで、最初から最後まで一貫しての業務ですね。

研修について

Q それでこちらに就職をされて、何か技術的なこととか、そういうふうな講習会等に行かれたことはあるんですか。

シーケンサを主体としてやっていますので、やはり、シーケンサ関係の講習会等とか、インバータとかサーボとかの講習会には結構行かせてもらっています。

短大教育について

Q それで、入学されてから、授業を受けられたなかで、印象深いものでは何がありますか。

そうですね、卒研で印象深いものとしては、自分で造ったマイコンボードを、Z80を使って実際にステッピングモータを使って動かしたりしましたが、それなどは印象深く残っていますね。

- Q 普通の短大なり、大学なりに比べて、カリキュラムが2期制だと、結構窮屈だったと思うんですけどね、そういう面では抵抗はなかったですか。

確かに、ほかの四大とかに比べたら詰まっていたね、でもまあ、2年間なんですけれども、普通の大学の3年分くらいの単位数はあったんじゃないかなと思っています。朝も1時間目から4時間目までぎっしり、ほとんど空気がない感じでした。それでも抵抗はそんなになかったんです。いろいろやれてかえってよかったかな、と思っていますけれど……。

- Q まあ、実際には、その1年半位よその経験もあるわけですけど、そちらの方の経験も含めて、職訓短大の2年間の教育を受けたことが、今の仕事に対してどういう面で役に立ったとか、こういうふうなことを受けたからよかった、という点があれば聞かせて下さい。

学校では、結構機器を使う実習が多かったこともあって、具体的にいうと、オシロスコープとかですね、それらを扱う会社に入れたので、あまり抵抗がないというか、その辺はありますね。

- Q 短大は、高専とはライバル意識を持っている訳なんですけれども、高専あるいは大学等の卒業生と比較してですね、何かこうこういう所がやはり違うなというか、気づくところがありますか。

この会社にもですね、高専の方が何人か入られているんですが、高専の方に対して、そういう感じは特にないですけれど……。

- Q まあ、四年制大学になると、期間的にやはり短大とは違ってくると思うんですけど、短大は、実技に対応できる実践技術者を目標にしているんですけど、そんなことを痛感したことはありますか。

そうですね、社員になったらもう机上だけでなく実際にやらなくてはいかないので、やはり、その点僕ら実習が多かったんで、その辺の抵抗はないというか、やはり良かったかなと思っています。

- Q 一昨年ぐらい前から標準カリキュラムといって、短大のカリキュラムがだいぶ変わってきているんです。当時は、先ほどいわれましたPC関係もまだやっていなかったですよ。それも今年くらいから少しずつ電子科でも取り入れることになりました。リレーシーケンスなど基本的なことからやって行こうということですね。

自分がいる頃から、リレーシーケンスですとか、その弱電関係ですかね、それは電子科として主なカリキュラムだったと思ってました。でも、実際この会社では、その弱電というのは特に扱ってはいないんですよ。でも、PCとかを扱う上では、やはりトランジスタ回路図が読めないといけないとかがあって、そこら辺ではものすごく役に立っていますね。

- Q 他に希望というか、こういうふうなものをもう少しやってあげばというのがありましたら……。

会社でやっている業務内容によって求められるニーズが違って来るんじゃないかなと思うんです。だから、実際業務をしていて、こういうのをやって欲しいとかはあるけれども、会社によってニーズが違うので、やはり難しいかな、というのがありますね。しかし、この会社での、自分の立場でいうと、シーケンス関係のことを知りたかった、ということもあるし、後、アナログとか、機器の選定方法、そこら辺はやはり知りたかったですね。

- Q 最後にこちらに勤められてですね、やりがいというか、やりがいという言葉でいいのかわからないですが、何かありましたら。

そうですね、やはり、自分で設計して、自分の考え通りにできて、それをお客さんに納めて満足して頂くとか、そういうときはやはりやりがいみたいなものを感じます。

(面接者：新貝)

C短大 電子技術科 H.3卒

T.Tさん (女性 22才)

勤務先 K開発(株)

現在の仕事について

Q 卒業して3年目ですか

3年目で、現在、環境開発課の技術開発GISグループに所属しています。GISは地層処分研究室という英語の略字なんです。最初からここに入って部所も変わらず、ずっとここにあります。職場の中での移動ありません。

短大教育について

Q 短大で学んだ知識とか技術が仕事に活用されているとすれば、こういった面でしょうか。直接的なことでも理論的なことでもいいんですけども。

そうですね、私の場合は役にたつということでは、プログラムの言語はBASICしかやらなかったんで、もっと他の言語も勉強させてくれればと思います。

Q 短大を卒業してこんなところがよかったとか、こんなところは不利益を被っているとか何かそういう事があったら教えて欲しいんですけど。

まあ、短大時代は、こういってはなんですけれど、勉強をまじめにしている方ではなかったんで、私としては勉強がハードであったという印象が強かったですね。ハードな教育的なものを学生時代に味わった事はとって今会社で役にたっていると思うんです。今の会社でも、自分の業務が勉強のようなものなんです。だからきりが無いと言えばそれまでなんですけれど、ここまでいいという感じで終わりにならないので、そういう意味では学校の昔に似てます。

Q 学校でのハードな勉強だったその実験とか実習について、もう少し具体的に聞かせてもらえませんか。

そうですね、女子であるという意識をあまり持たないままに入学して、授業で最初に電圧計と電流計のつなぎ方から入るわけですが、全然分からないのです。つなぎ方ひとつでも、テスターとか、初めて触るような機械ばかりでした。技術系のクラスに入ること自体、珍しいがられていましたように思います。

Q 実験とか実習あったとき、必ず報告書とか書きましたよね。ああいうことも、きつかったですか。

思い出してもきついですね。きついというか、今思えば、なんてことないんでしょうけれど、学生のころは、すごく世の中をなめていたとかそういう感じだったんで、週2回のレポートの提出が、きつかったと思います。でも苦痛で苦労した割には、内容の充実さがないレポートだったと思います。今も会社で実験を書いた後に速報とか実験速報を書くんですけど、そういう意味でも未熟な部分があったと思います。

Q 実験、調査した後は、それを文章にするという意味では少しはためになっているのですね。

そうですね、報告という形で、役にたっていると思います。あの実習は。

Q 今、卒業して3年目を迎えて、短大にいたときにもっとこういう勉強しておけばよかったとか、短大にこんなカリキュラムがあったらいいとか、要望等があったら聞かせて下さい。

学生時代のカリキュラムは、勉強になることが多かったんでいいと思いますけれど、自分のやる気がないと何をやってもいまいち勉強が身に付かないので、今思えば、こういう事をもっと詳しくやっておけばよかったと思う事がいっぱいあります。具体的にそうですね、電磁気学とか、電気工学とか、……。

Q 短大の電子技術科選んだのには理由があるわけでしょう。

これも第2希望なんです。情報処理科を受けたんですけど、落ちたんです。

学生は皆んなそうなんだろうけど、自分でお金稼がないから分からないことが多いですよ、だから勉強にしろ先生が一生懸命説明してくれたんだから真剣に掘り下げれば、すごい知識が入ってくるのに、もっとしなくてはならないのじゃないかなと思います。あまり勉強しなかったような気がします。

Q 何か短大の先生方にお話するような事、希望みたいな事ありますか。

企業にでてから、ここが重要なんだと言うポイントを強調して指導して下さったのですが、みんな嫌がっていたんですけど今思えば、それが結構いい教訓になっているのです。

Q Tさん今でも時々短大には行ったりするんですか。

全然足を向けてないです。こないだ久しぶりに近くに行きましたけれど。施設も整っているとかいろんなきれいな建物ができているとか。

Q 法律が変わりまして、職業能力開発短期大学校と名前が変わりましたが。例えばTさんが短大に通っているときに友達とか、親戚のおばさん、おじさん、がどこ行ってるのと、聞かれたときに、私は職業訓練短期大学校と言えましたか。

まあ、言えましたが、何してんのと聞かれました。昔はよくわかんないんですけど、昔からありましたよね。うちのお父さんも、その関係だったんで、それで短大に知ってる方がいらしたんです。それで、これと言って私は気にしていなかったです。

処遇について

Q そういう知識があるのと、知らないとはだいぶ違いますからね。ところで、短大を卒業してからの待遇面を聞きたいんですけど、文部省系の短大卒の人と同じ等級というか、待遇になっているのですか。

そうだと思います。会社では、短大卒待遇のお給料をもらっています。学歴には関係ないみたいで、大学だったらこの辺、短大だったらこの辺になってるみたいです。

Q それでは、職訓短大という事で、不利益を被ったとか、いやな想いをしたとか、そういう事はないですか。

特にないです。先輩で、同じ学校出身の人がおなじ部屋にいたんですけど、まあ、そこそこにできる人だったんで、悪くはみられてなかったと思います。

Q 短大も今変わってきて、1週間とか3日位の短いコースで、仕事を持っている人を対象にセミナー形式で研修会をする事になったんです。Tさんの職場の雰囲気、状況では、参加することができそうですか。

おなじ部屋の方で、行った方います。

上司の方も行ってきたらいいんじゃないかと言ってくれています。

(面接者：尾崎)

D短大 金属成形科 H・2 卒

M.O君 (男性 23才)

勤務先 H工業 (株)

就職について

Q ここは卒業して初めて勤めた会社になるんですか。

そうです。転職はしてません。家は磐田にありますので会社には車で通っています。片道25 Kmくらいあります。

Q この会社には1400名位の従業員がいるそうですが、ここに決めた理由はどのようなものでしたか。その決定に影響を与えた人というのは。

今まで勉強してきたことが、電気と機械でしたので、それを生かせることを条件に深したのですが高校時代の友達のもっていた求人票を見せてもらったらボーナスとか休みとかいいなと思い決めました。

現在の仕事について

Q 現在の仕事はなにですか。

生産技術課の設計係です。

Q 設計の仕事は、現場を知らないとできないと思うんですけど、最初から設計におられたんですか。

いや、最初は工作係にいました。設計で書き上がったものを自分達で加工して組み立てて行くという仕事です。

Q 今の仕事やりがいがありますか。

設計に入ってきてからかなりあります。工作の仕事ですとからだが覚えてますので、ここはこういうふうにやればいいのか分かるんだけど、設計ではとにかく本やカタログ類を持ち出して調べるという形から入らないといけませんので……。例えば、使う部品はこっちの方が安くて済むとか、こういうのがあれば便利かなということまで検討します。

Q だいぶ工作にいたときより頭を使う仕事になってきたんですね。

そうですね。自分で図面を書いてそれが実際のものになって来るんで、そういう喜びと言うのは感じます。

Q これからもこの会社にいたいという気持ちがありますか。それとも、30くらいまでには別の仕事をしてみたいとか……。

実際まだ分からない状態で、なんとなく仕事やっているという状態です。

短大教育について

- Q 今は、工作係に回す図面を書いているわけですね。設計にしる加工／組立にしる、短大で勉強した事はどのような形で役だっていますか。

製図はかなり役に立っていると思います。機械科でしたので、旋盤の実習もやりましたがそれも役だっています。

- Q 同期で卒業した人と今でもつき合ったり話したりする人いますか。そう人の中で転職した人いませんか。

そうですね、まだみんながんばって働いていますよ。

- Q 短大時代をふりかえってみて、あのときにこういう勉強しておけばよかったとか、希望あるいは短大教育に対する要望はありますか。

勉強あまりやらなかったんですが、やはり電気とか設計の仕事をしていますとやはり電気とかシーケンサ等の勉強をやりたいなと思っています。

- Q そういう希望を上司に言うのとやらせてもらえますか。

そうですね、こっちが意欲見せれば。

- Q 短大にいていたとき一番興味あったのはなんですか。

溶接ですね。学科では機械の仕組みについてです。

- Q 話は前後しますが、そもそも〇短大をどこで知ったんですか。

それは短大のそばにいる親戚がこういう学校があるよと教えてくれたのです。勉強はしなかったけれども、カリキュラムもかなりきつかったですから、学生生活をエンジョイしてはないと思うんです。

- Q 短大の実習設備は専修学校に比べて充実していると思いますが、実技に重点をおいていることについてよかったと思うことがありますか。

そうですね、ひとりひとりに機械があって触る機会が多かったのも、実際会社でもあたふたすることなく、こういう風にできるというのが分かるもんですからそれは役にたちました。

処遇について

- Q 自分の居場所と言うのはしっかり確保されているんですか、就職時の待遇と言うのは、どうなんですか。

実際には高校生と一緒に扱いで、研修も一緒に受けていたんです。

- Q 高校卒業プラス2年と言う扱いですね、それに対して不満みたいのはなかったですか。

そうですね、自分ひとりだったもんですから、ひとりで研修を受けるのよりも一緒にみんなで受けていた方がいいと思いました。

(面接者：尾崎)

E短大 建築科 H・1 卒

T.W君 (男性 24才)

勤務先 Tスタンダード (株)

就職について

Q 卒業して今年何年目ですか。

入社して5年目です。平成元年の卒業です。

Q Wさんの自宅はどちらですか。

宮城県内の柴田町です。

Q 車で通勤ですか。

はい、車で20分位です。

Q この会社を決めた理由は何ですか。

私が長男でしたんで、家から通える範囲内で仙台か、もしくは東北でも通える範囲にしぼって考えました。それに、ここはシステムキッチンとか、ガスとかお風呂とか、いままで経験してないものばかりでしたので興味もありました。

Q 求職票をみて、これなら条件に合うからということも考えられたんですね。

短大のデザイン科には通知がいったようなんですけど、建築科には来てなかったです。それを紹介されて。私の時に初めてきたという事でしたので。

Q それは、就職係の方から紹介されたということですね。

一応就職担当のH先生から紹介されてですね、自分で就職活動を始めました。

Q ここが初めての会社で、その後ずっとですよ。

そうです。会社が長く続いているということは、安定している会社だなと思ひまして。

Q 従業員は何人くらいですか。

仙台支店だけだと50名近く、全国だと3千人くらいはいるはずですよ。支店の数は今ちょっと詳しい所まではわからないんですが、本社が大阪で、仙台が東北の母店で、出先として青森、山形など各県に一つづつあります。

現在の仕事について

Q いま、業務課になってますけれど、仕事の内容は。

工事管理とか業者管理など施工に関しての指導です。

Q といいますと、こちらシステムキッチンとかガスとか多いですが、そういったものの施工ですか。

そうです。施工の下請けの業者の管理ですね。

Q つまり、下請けの方に仕事を下ろしたときに、果たしてそれがうまく施工されているか、どうかをチェックする訳ですね。

そうですね、というのは戸建てだけでなくアパートとか、マンションの方もすべてやりますので……。アパートの方は継続的に半年とか1年の物件ですから、その辺の管理ということと入ったんです。

Q 入った当初はどういう仕事でしたか。

最初入ったときは設計でしたが、設計の前の商品を覚えるという事で、その後、現場管理を、監督みたいなことですね、納期管理というか、アパートの物件の現場担当ということをやりました。

Q 最初に、求人できたときは設計でしたか。

求人できたときは設計でしたが、実際は現場管理ということでした。

Q 現場管理というと、戸建てとか、集合住宅なんかの間取りを見て、そのキッチンとか台所とかの配管などをやるんですか。

そうですね、配管、電気、ダストそのへんになりますかね。

Q 現在はその業務係りにいて、仕事をしているわけですね。

今も業務課なんです、今度下に人がどんどん入ってきましたので、今は戸建ての方に会社が力を入れ初めているんです。いままで戸建てには現場管理がなかったんです。業者に発注して終わりだったんです。ところがそれでは1セットなん百万円という流し台ですから、それではまずいということで戸建ての専属という形で、アパートも兼任ということで人がつくようになりました。

Q 一人前と言うと何年位ですか。ここでは。

そうですね主任クラスにならないとまだ一人前とはいえないと思います。7、8年ですね。

Q 製図ではどんなことをやりましたか。

木造の製図で、二階建ての個人住宅です、自分でプランをたててやりました。

Q それは何分の一のものでしたか。

たぶん、50分の一だったと思います。しかし思ったほど配管までは書けなかったです。今はCADになってますので、ドラフターとCADを連動して、図面のプランニングだけは、コンピューターでやっていますから。

処遇について

Q 今主任とかになってるんですか。

いいえ、まだなってません。うちの会社はまだそんなの早いですね。

Q 主任は幾つくらいですか。

28才から30才くらいです。

Q Wさんと同じような仕事している人では、専門学校出とかの人もいるんですか。

そうですね、短大卒か、専門学校卒が多いですね。

Q 大学は別の方に。

ええ、本社の方に多く行かれるんです。

Q どんな学校からきてます。

高校卒の人なんかもあります。

Q 専門学校というと、こういった方面の学校になるんですか。

設計の方の専門学校ですか、この辺では来てないです。東京あたりですと、設計や製図の専門学校みたいなのところから入ってるみたいですけど。

Q そういう人達と比べて、給料はどうですか。

現時点では、大卒とは殆ど変わりません。同じ年の大卒に比べて、ほとんど変わらない程度まではいただいています。

Q では、専門学校卒と比べたらどうですか。

専門学校卒でも同じです。高校卒か、大卒か、短大、もしくは専門学校その間に区別がないですから。

Q Wさんのクラスでは、どっちになるんですか。

その中間ですね、高卒よりは高いですけど、大卒よりは低いということになります。

Q 能力給的なこともあるんですか。

能力給というよりは実績ですかね、自分の技術を売っていくというのではなく、業者の技術をアップさせて、うまく運営されて行くように進める仕事ですから、いくら自分で勉強しても、それが直接現場に反映されることがないので、あくまでも業者管理が主になりますから。

研修について

Q 研修かなんかを受けることもあるんですか。

入ってすぐにはなかったです。現場実地研修みたいなもので、最初の3年位は現場覚えてした。

Q 2、3人で組を組んで、現場に入ってシステムユニットの組立をやるとかになるんですか。

そうですね、私は作業は直接やりませんが、監督さんから話を聞いて、ある程度陰ではやりますよ。幾らかでも、体で覚えないとどういうものか分からないですから。

Q この業種は、けっこう巾広いんでしょ、

広いですね。商品を卸すのがメインなんですけど、会社自体は一応メーカーですから、施工業者を抱えている手前、どうしてもと、お客様から依頼されるような部分に関しては、戸建ての方は施工してます。後は大工さんに商品を卸す形ですね。

Q ハウスメーカーに対してですか。

ハウスメーカーもしくは一般代理店を通じて工務店までで、直接個人には卸しません。あくまでも代理店経由でないと卸しません。

短大教育について

Q 今の仕事をしていますね、学校で習ったことで、何か役だったということがありましたか。

学校ではコンクリート打ちとか、配筋などをやりましたし、あと強度試験とかもやりましたので、直接現場に入っても梁がなんであるのか、取り合い的にはどういうものか、その作りがどうなってるのか、大まかなことは分かりました。言葉も通じましたし、その辺で支障はなかったです。ただ木造の方に移ってから、図面書いたりとか、構造的なことについては対応できたんですけど、専門的なことになると、今一つという感じがします。

Q 今振り返ってみて、短大に行っていてよかったと思ってますか。

短大にあってよかったと思います。

Q どういう点でよかったですか。

就職してから、専門に分かれていきましたけれども、この仙台だけでも二人いますし、あと住宅メーカーに一人、建設会社にも一人いて、互いに助け合えるという部分がありますね、2年間寮に入っていましたんで、卒業してからも今も付き合いがあるんです。

Q 建築科が住居科に変わったのはこの時期ですか。

その時期わかんなかったです、内容といってもデザインが半分入っていましたから、Sさんという後輩がいますが、話を聞いていてもあわないところありますね。

Q Wさんからみられてどうですか、この名前の方がいいのか、君のときの建築科の方がいいのか。

住居環境科になりますと、カリキュラムが会社の方針からはずれるんですね、会社としては今までの慣例で、建築卒となっちゃうんです。募集の対象からはずれるというか、会社から建築で求人を出しても、短大からは住居環境で帰ってくると、これなんだということになっちゃうんです。会社ではデザインの方もやってはいますが、分野が違うので、デザインはいらないというふうになっちゃったんです。そこで会社の方には、一応建築科ということで話しをして、学校に求人募集に行きました。

Q 今は建築プラスデザインですね。

適用範囲がだんだん狭くなってしまうので、そういうのやる人いないですね。ただ、S君だけはひとり別なのをやっていて、お風呂とか、ユニットバスとか専門にやってます。会社の中では彼一人なんです。その代わりその部分にかけては、私達よりぐんと上ですね。

(面接者：石橋、江後)

G短大 金属成形科 S・63卒

M.M君 (男性 25才)

勤務先 Cパルプ (株)

短大入学について

Q MさんはG短大を希望されたということですが、高校はどこをでられたのですか。

K 高校です。

Q そこを卒業されて、G短大の金属成形科を選ばれた訳ですけども、そのところから、話を伺わせていただきます。

高校の時、理系の方へ進みまして、どっちかといえば、デスクワークよりもこういった、現場というか機械とか、コンピュータ関係ですね、そちらの方を学びたいと思い、それに自分の性格にも合っているんじゃないかという気がして、G職短を選びました。もちろん金銭的な面もあるんですが、わりと短期間でハイレベルな教育を受けられるのと、2年間で専門知識が身に付ければ、いい所へ就職できるんじゃないか、という感じで選んだのですが、基本的には、機械いじりが好きだということでした。

就職について

Q そこで2年間訓練を受けて、いよいよ就職を決めるときになりますが、こちらのCパルプさんを選ばれた理由は何ですか。

特にここをという訳で指定した訳でなかったんですが、Kセラさんの方はきついとかいろいろ噂が耳に入りましたし、就職担当の先生の進めもあって、こちらにお世話になったんです。

Q それで、こちらに就職されて、最初がここでしたか。本社がここになるんですか。

本社は東京にあります。

Q あの会社で、ちょっとお話を伺ったんですけど、そこでは、四大と短大が本社採用、高卒は地元採用という形でしたが、こちらの会社ではどうなんですか。

大学と大学院は本社採用です。しかし、大学、大学院卒は本社採用になりますと転勤があります。工場採用では、短大、専門学校、高専までありますけれど、工場採用では定年まで勤務ということになります。長い期間だと、例えば技術研修とか多いんで、富山の方に工場があってそっちの方にとりあえず行ってくれということがあっても知れないが、いつまでもこの工場にいるかわからんということはないです。殆どこの工場からでることはないと思っていただいて間違いありません。

Q とところで、Mさんはどこから通われているんですか。

会社の寮からです。ここから10分くらい離れたところです。

Q ご自宅は。

K市なんです。ここから50キロ位ですが、1時間10分程かかります。

研修について

Q 工場採用で入られた方の、研修というものがあるんですか。例えば本社採用の場合、いろいろな工場を研修という形で回って、それから赴任地が決まるということがふつうですが、この会社ではどうですか。

高専出とか、職短大出の人をどう位置づけしているか、ということにかかわってくる話なんですけど、実態として、研修します。入社前に延べ2週間位かな“青年の家”でやったり、会社の厚生施設でやったりします。4月1日の入社式が終わった直後に自分の職場が決まり、1週間か、10日くらいは工場内の全部のセクションを回りました。

現在の仕事について

Q それで今はどういう仕事をなされているんですか。

最近名称が変わったんですが、施設部電気計装課というところなんです。前の名前は、工務部計装課だったんです。どんなことをやっているかといえば、装置工場ですからいろいろな調節関係ですね。バルブとか流量計とか、そういったもののメンテナンスがメインなんです。他にPCSといまして、デジタルコントロールシステムですね、コンピュータ制御のメンテナンス、あるいは、新規の計画ですね。こういう会社ですからどんどん装置を改良したり、新規に作ったりしますから、そういった案件の計画、施工ですね。工場や工事の担当者に会って、図面を書いたり、業者の監督、それとか、後はそういった関係の資料がでてきますから、そういったものの整理ですね。だから、結構巾が広い、オペレータでないというだけの話しです。突発的なトラブルが起きたら、現場に行きどうにか直してくるということもあります。

Q パルプ会社の仕事の内容があまりわかりませんが、少し詳しく聞かせて下さい。

工務関係でしたら、機械、そちらの方の、加工、手直し、修理、自分の場合は全く機械加工しないかと言えば、そうではないんです。いろいろダクト工事とか、ガス溶接使ったりしていますし、どちらかというと機械のメンテのイメージが強いです。

正常に動いているときはそんなに忙しくなくて、壊れたときとか、工場が止まっているときに、いろいろ保守とかありますからそんなときは忙しくなります。

Q いろいろ幅広く仕事をやられている訳なんですけれど、ここには、今年で7年目位になるんですか。

ええと、5年目です。

Q その中で、短大では取れなかった資格とか、その後取られた資格で、なにかありますか。

現場の方でしたら、ボイラー係りだったら1級とか、特級とかいうものがありますが、自分が今いる計器の方では、資格がないと困るということはないのです、自分に甘えている訳ではないんですが、資格もこれから取って行かないといけないとは思っているんですが、これと言って残念ながら資格を取得しておりません。

Q 今でも実際には必要性というものはないわけですね。

そうですね。強いて言えば放射線というか、ガンマ線を使ったセイリングをやっていますから、そちらの方の取扱主任の資格を取れば結構いいらしいですけど、いろいろ難しいんです。とりわけ今のところは会社の方でもっておられる方がいますから、強く進められれば勉強しないこともないんですけど、まだ今は、ちょっとのんびりしています。

短大教育について

- Q 実際にG短大で学ばれた知識というかそれが今の職場で、何か役に立ったと感ずることがあります。

僕が短大に入ったときは、金属成形科だったんです。名前が金属成形ですから、金型とか、そういったものがメインだったんですけど、途中で制御機械に変わってNC旋盤とか、自動プログラミングとかコンピュータ関係をやったもんですからそのおかげで、数値制御、電算機回路とか、そういったものも一通り頭の中に残ってます。それが今振り返れば、こういうことだったのかなと……。

- Q さっき言われてたんですけれど、G短大、それと高専、四大はちょっと比較にならないかと思うんですけれど、何かここんところが違うなとか、高専と比較した場合こういう面が優れているとか、または劣っているとか、何かそういうものがありましたら……。

高専との比較ですか。そうですね、自分が卒業した学校のことから言えば、やっぱり名前が職業訓練ではおちます。高専と言えば、中学校3年の時に、試験を受けて、選抜されて入ってきて5年ですね。うちの場合は、普通科をでてきた連中と推薦があって、中には工業系で推薦で入ってきて、本当にキレる人もいますんですけど、この辺が、職短のレベルを下げているんじゃないかという気がします。高専の人達と言えば、平均が僕からみても、やはり上かなという感じがしています。だからなおさら高専の人達には負けたくないという気持ちをもってます。やはり高専と比較した場合、平均レベルが高専の方が上とか言われることがありますけど、そうなのかな、という気がします。

- Q 能開短大でこういうふうなものを学んでおけばよかったとか、勉強しておけばよかったとか、そういうものがあつたら聞かせて下さい。

今は汎用旋盤とか使わないですよ。全部NCなり、マシニングセンタになってますから。旋盤がいくらうまくても、コンピュータとか、数値に弱ければ、応用がきかないんじゃないかという感じがして……。自分達のころの事を思えば重点は、ハイテクというか、そちらの方ですね、なんて言うか、こういったもんだと言うのが分ければそれでいいんじゃないかと、後は電気の、コンピュータというかそちらの方に、重点を置かれた方がよかったんじゃないかという気がします。

- Q 今でも、旋盤等を使われる事があるわけですか。

まだ、工場には、シャフトを作ったり、ドライヤとか旋盤加工する所があるんです。だから旋盤でどういった加工ができるというのが分かってますから、何かトラブルがあつても壊れたりしたとき、これくらいなら加工して直せるのではないかと、それくらいの知識はありますから、実際修理をせないかんときも段取りが付きやすいというのはあるんじゃないかと思います。

(面接者：新貝)

G短大 金属成形科 H・I 卒

S.M君 (男性 24才)

勤務先 K (株)

短大入学について

- Q 職業能力開発短期大学校を卒業されて、この会社に入られるまでと、入られてからの気持ちなど聞かせていただければと思います。まず、最初にG短大をどうして選ばれたか、そのあたりのお話を聞かせていただければと思います。

高校の時に、クラブ活動に力を入れていたもんですから、あまり勉強のほうは芳しくなかったんです。だから、普通の四年制大学に行くのも考えたんですけど、それよりは手に職を付けたほうがいいということで、職短に決めました。あとは今の仕事の内容なんですけれども、それも職短の時代に学んだことが結構生かせてますので、今のところ満足にやっています。

現在の仕事について

- Q こちらの会社を選ばれるときにどなたかのアドバイスが何かありましたか。

一番の理由と言うのは、うちの姉がKセラに勤めていたということで、私も何回か行事とかを見に来たことがありましたし、いちばん近いところでもありましたので、こちらに決めました。

- Q 就職を決めるときはもう殆ど自分で選んだということで、就職担当の先生に特に相談とか、そういうことはなかった訳ですね。それで、金属成形科を卒業されて、こちらに、入られて6年目になるんですか。入られてからは、いままでどんなことをやられてきたのか聞かせていただけませんか。

まず、1年目、2年目は担当の仕事というのがあったんですけど、6年間殆ど同じようなことやってきて、その間職場の移動がありましたけれども、大体そのなかでやってきたことは、職場の改善ですね、設備を改善するとか、製造工程を改善するとか、そういった仕事をずっと……。

- Q 設備診断というか、そういうふうなところに配属になったということですね。その課の名前は何かというんですか。

原料製造開発課です。

- Q K社というとセラミックというか、そういうイメージしかないもんですからもう少し仕事の内容等聞かせていただきたいんですけど、そこでどういうふうな仕事をやられているかなど。

簡単に言えば、人手でやってるような所を少しでも楽にするために機械化するとか、ちょっとした改善を加えて人がやらなくても済むようにするとか、そういうことです。

短大教育について

Q 短大では金属成形科をでられてますが、今の仕事で何か役に立ったと言うことはありますか。

金属成形科の実習では、金属の板から形を作ったりとか、そういうのやりましたんで、業者の人とかに対して、こういう形を作って下さいとか説明するんですけど、そういうときに感ずることはありました。

Q こちらには、高専の卒業生、文部系の短大なり大学をでられた人もおられると思うんですけど、その人達と比べてなにかハンデとかを感じるようなことがありますか。

例えば製品に結構ばらつきがあるとしますと、その差というのはこれは個人の問題になって来るんです。結局は、大学に差がありますから、その辺の判断と言うのは難しいですね。

Q 短大に対して、こういうことをもう少しやって欲しかったとか、こういう勉強しておけばよかったとか、こういう科目があればよかったのではないかと、そういうことでなにかありましたら。

基本的なことかも知れないですけど、製図知識とか、パソコン関係のことは短大で少々やりましたので、そういうのは実際に会社に入ってから役に立ったと思います。

(面接者：新貝)

L短大 情報処理科 H・2 卒

J.S君 (男性 23才)

勤務先 S製作所 (株)

就職について

Q Sさんは短大を卒業して、こちらの会社が始めてですか。

卒業の時にきたので、ここが始めてです。

Q 何年くらいになりますか。

今年の3月でまる4年経ちます。面接自体、ここの会社にしか来なかったのですが、その前に研究室でB先生に進められまして、ソフトハウスなどは将来やらない所もあるから、大きな会社の中でやって行くのもいいんじゃないかといわれまして、それで面接に行って、その場で決めたと言う形です。

Q 先生からの推薦ということですね。

一応求人票がきまして、その中からここを勧められたていました。

研修について

Q こちらの会社の従業員は何人位ですか。

全社で1,700人くらいです。

Q こちらに入ってから、どういう社内研修がありましたか。

まず4月に入りまして、1カ月間本社で2年制の学校卒業以上の人が集まりまして、品質とかそういうことについて、1カ月間の研修を講義形式でやってもらいまして、それが終わった後は研修生が8名ほどいたんですけど、2名か3名に分かれまして5月、6月、7月と生田の工場で実際の仕事の体験をして、それで7月の終わりに相談を受けた後、8月に正式に配属という形になりました。

Q 業種は、どんなものですか。

自動制御機器が主体で、狭山の方では主にバルブ関係と試験機関係の方をやってまして、所沢の方ではセンサー関係、特にうちの第3工場の方では電子部品関係が主になります。

Q 家電ですか。

そうですね、一般的には、エアコンの中に組み込まれている部品の製造です。

色々ありますが、通常の家電と言うのはあまり小さいものは入ってこないで、D社やM社のエアコンの内部に使うものとか、もう少し大型の壁に埋め込み式のドレコンとかそういうのを作ってます。

現在の仕事について

Q 今どこから通ってますか。

狭山です、自宅から通ってます。ここから車で10分位です。最初の8月には狭山工場に配属されまして、こちらの方が少し遠かったのですが、しばらくしてから課ごとこちらに移ってきました。

Q 現在はシステム技術課になってるのですか、そこではどういう仕事をなさってるのですか。

ビルの建物の温度や空気の入れ替えを監視するための、ハードとソフトの両方をやってるんですけど、私はその中で主にソフトとか、プログラムを組む仕事をやってます。

Q 本体のなかのメインを制御する所のプログラムをやってるということですか。

そうですね、一番うえを監視している人間が使う部分のプログラムです。建物のあるポイントの一覧を見まして、そこで上から門をかけてとか、グループにまとめて、張って掛けたりとか、スケジュールを張って掛けたりとか、または積算でとか、温度とかの状態を監視するといったような、装置の制御のプログラムを作ってます。

Q プログラム作るにはどういう言語でやるわけですか。

一応Cなんです。ただCといいましても、IBMのOS2というOSを使っていますので、そのなかについている端数というか、そちらの方を主に使っているんで、Cらしくない訳なんです。

Q 配属されてからずっとそのような仕事ですか。

そうですね、最初仕事に慣れるまでは、単純にベーシックのプログラムを1、2カ月したり、実際にハードの方では、製造のラインの、検査プログラムを直したり、いろいろしました。その後1年経ってからは、こちらの方のシステムにかかっています。

Q 今何人くらいでやっているのですか。

上のプログラムを組んでいるのは2人しかいないんです。私の先輩の方がやめられまして、今は誰も上にいない状態です。

Q つまり責任者ですね。

そうですね、管理者は上にいますけれども、プログラム組む人は二人だけということです。

短大教育について

Q 学校ではそういうふうな仕事に関連したことをやられたと思うんですが、どういった面で、何が役にたったとかいうのがありましたら……。

一番よかったのは、実際にプログラム言語を学んだ後にプログラムを組みましたから、その点では仕事の慣れが早いというか、そちらの方で役だったと思います。

Q あまり抵抗なかったですか、仕事自体は。

そうですね、会社の雰囲気からみて、私がやるような仕事があるのかな、とは思いましたが、最初からパソコン使わせてもらってたので、それなりにやれました。

Q 反対に、こういう授業はいらないとか、こういうのは関係ないとかいうのがありましたか。

私の場合は実習が電子科の人といっしょだったので、それがたまたま役立ったといえます。

Q それはということですか。

入ってすぐに半ダ付けをしましたが、こういうことなんかは普通、情報科ではやらないけれども、たまたまそういうことをやっていたので、ハードのことも多少理解できました。

Q Sさんあなたは職業訓練短期大学出なのですけども、別に短大なんかでなくても、プログラムが組める仕事だったら、専門学校でも、大学でもいいということになりますかね。

そうですね、学校の方では、言語に関しては色々なものを少しづつやらされましたので、まあ、何が当たっても安心だったという点はあるんですけど、専門学校だとやはり、専門外のことだったらできなかったかも知れないと思います。

Q 短大出の採用はあなたが始めてですか。

この会社では私が始めてです。たまたま景気がよかった時代ですので、S社から求人票が来たのが珍しいと先生がおっしゃっていました。私が最初に入りまして、次に1年後の後輩が一人入りました。4月に女の子が一人入るかも知れませんが。

Q もう卒業されてから4年たつのですね。Sさんが短大に入ってからどのような点がよかったと思いますか。

他の大学なんか休みが多いし、下手したら高校以上に詰まったスケジュールでやらせてもらったので、他の専門学校の人と比べても負けないという自信はあります。

Q たいへん満足しているということですかね。

はい、例えば大学でましても、同じ年に入って、同じ仕事であれば、結局仕事ができる内容というのはそんなに変わらないと思うんです。後は査定とかは別にしてですけど……。

処遇について

Q 採用条件はどうなんですか。

初任給が太卒と比べると、もともと2級下ですが、順番に上がっていくので変わらないです。

Q 仕事は何時から何時までですか。

8時15分から5時までです。週休完全2日制の、土、日が完全休みというわけでなくて、週に2日休みがあるときは5日働くという形で、祝日かなんかがありますと、土曜日はでてきたりということになるんですけど。それ以外に連休があると週に2日休むという形です。

Q 情報処理の、2種とか1種とかがあるんですけど、そういう資格なんかやはりとってると有利ですか。

そういうものはないです。危険物とかも含めていろいろな職種について、300円とか800円くらいで、とってから3年間毎月足されるという点でしかないと思います。別に資格はそれほど必要ないです。

(面接者：石渡、江後)

E短大 建築科 H・2 卒

U.S君 (男性 23才)

勤務先 Tスタンダード (株)

現在の仕事について

Q Sさんは、この会社は何年目ですか。

4年目になります。卒業してからずっとここに勤めています。

Q こちらの会社は初めての会社ですか。

そうです。

Q Sさんはどういう仕事をなさってるんですか。

ユニットバスの工事関係で、ユニットバスの組立の指導とか、業者の手配などです。

Q 業者に発注して、業者が配管して、ガスの配管がちゃんとしてるかを検査する訳ですね。

まあそうですが、配管の方はしません。

Q 要するに、配管をして、ユニットバスの据え付けをして、家庭で使える状態にしてから最終的には検査するのですね。

そこまでしてないです、結局うちの施工自体に関してだけのことから。

Q 湯がでてこないときに、ハウスメーカーから来るわけですか。

それは設備やさんがからんでいるわけですから、うちには全然関係ないです。

Q ハーフユニットもやるんですか

たまにやります。ハーフを設置して、いままであったようなタイル仕上げとか、そういう感じです。

Q 今浴槽でいちばんよくでているタイプは、一坪タイプですか。

今は1.25坪から、最近1.5坪がでたんですけど、それもかなりでてます。

今、お風呂にお金かけるお客さん多いらしくて、ジェットバスとかけっこうです。

短大教育について

Q Kさんの時とは短大のカリキュラムは、科目が多少違うんですよね、当然の事なんですけど……。

私の方は、デザインとかそちらの方やりましたから。デザインと建築が半々くらいでした。

Q となると、建築実習のですね、コンクリートとか、木造の軸組とか、そういうのをやったのですね。

そういうのも一応やりました。

Q 一応やるけれども、時間は半分になってるということですね。

そうですね。

Q 先生は同じですね。

どうなのでしょう、会社の対応として、住居環境科をでた人と、建築科をでた人ということで、当然、仕事の与え方では分けてくると思います。例えていうと、私は当初設計で入った訳でなくて、現場管理を希望して入ったんですけど、ちょうど、私と同じ年の時に仙台で二人採用になって、ひとりは現場管理、もうひとりは設計という事になって、私の方が図面書いたことがあるという事で、設計の方に回ったということですけど。

Q では学校に対してこんな科目とか、こんな事教えてくれた方がいいんじゃないかとか、いうのがあったら聞かせて下さい。

私自身は今ユニットバスの方をやっていて、現場の木造住宅の方が主なんですけれど、要は、ユニットを付けて、仕上げに入るまでの間に、現場がどう納まってるかというのが分かるわけです。しかし学校で勉強したときは、なんでこういうものが納まるのか分からなかったです。でも今、現場を回っていて、目で体験してますから、学校で勉強するのは教科書もいいですけど、現場では、こういう風に建物が建って来るんだよ、ということを見せた方が、頭に残っていいんじゃないかと思うんです。

Q どの部分が減って、どの部分が増えたんですか。

そうですね、私が短大に入った当初は、建築を勉強したかったんですけど、結局私の代から、住居環境科に変わってしまいましたから。

Q 入った時点から変わったんですか。

いえ、変わる時点でデザインとかが入ってたんですけど、高校にいたときに資料いただいた時は、建築科だったんですけども。

Q あなたは短大を卒業されたんですけど、あなたの友達なんかで、大学いたり、専門学校にいたりした人もいましたよね、で、短大についての友達の評判というか、評価はどうですか。

そうですね、専門学校の方が科が細かく分かれていますよね、専門学校だと、建築設計とか、デザインとか、いろいろありますから。

Q 短大のように、広く知っていた方がいいのではないかと思いますか。

そうですね、会社の方でもOA化とかという事で、進めていますんで、それに合わせて、今はコンピューターとかがいじれないと、仕事にならないという状態ですから。

Q 専門校からきた方は、そういう事はやってないのですか。

専門学校だと、そんなやってないです。私は多少パソコンに興味があったんで、先生にいじらせてもらったりして、やはりその辺はよかったかなと思います。

(面接者：石橋、江後)

E短大 建築科 S.63卒

N.M君 (男性 25才)

勤務先 N積算 (株)

短大入学について

Q なぜ、職訓短大に入ろうと思われたんですか。

やはり、学費が安いということですね。4年制の大学には行こうとは思わなかったです。

Q 普通の専門学校と同じとしたら、入ってましたか。

いえ、入ってないです。

Q 内容については、その時点ではわかんないですね。

授業料の割にはよかったかな、と思ってます。学校の授業とかは結構よかったです。

Q それを聞いて安心しました。他には特に要望はありませんか。

都市部にあった方がいいんじゃないですか。

Q あれは田舎ですよ。

田舎過ぎます。場所的に仙台の方がいいです。

現在の仕事について

Q どの辺から通ってるんですか。

今仙台の黒松というところから、地下鉄で30分位です。実家は福島県の相馬市です。

Q 大体、年に一人か二人くらいづつ入っているんですか。

そうですね。私の先輩に東京にっている人がいるんです。

Q 転勤という事ですか。

最初から東京なんです。

Q Mさんも東京の方に、転勤の可能性あるんですか。

殆どないです。

Q M君は短大を卒業して6年目ですか。どういう仕事をなさっているんですか。

建築物の見積です。建物に使われるコンクリートの量とか、型枠とか鉄筋の量とか、その建物に使われる材料を拾いだして、単価を掛けて、その建物が幾らかかるを調べているんです。

Q 拾いだすのは図面からですか。

そうです。図面からです。

Q 図面から拾いだす見かたがあるんですね。そうして仕事ができるようになったという事は何をなされたからなんですか。

やはり学校の授業で、建築積算の科目があったことですね。つまり構造積算という科目がありましたので……。

Q 構造積算というとコンクリートと鉄筋が主ですね。その仕事を何年位……。

初めらかですと6年くらいずっと、役職はチーフと言うのかな。

Q チーフと言うのは幾つくらいからなれるのですか。

それは分かりません。大体20代の後半くらいですかね。

短大教育について

Q 他の方はどういう学校からきていますか。

工業大とか東工大とか、専門学校とかも来てますけれど、名前は分かりません。仕事の内容は同じです。

Q 短大の時いろいろ習ったと思うんですけど、こちら積算の会社だから、積算が一番役だっているんでしょうね。

建築全般を知らないと、積算だけやってもしょうがないと思うんです。

Q 短大で、もう少しこういうことを教えてもらえばよかったかな、という事ありますか。

材料とか施工とかその辺は詳しくやってもらいたかったです。

Q 学校では型枠なんかを組んで、コンクリート流し込んだりしましたか。

そこまではやらなかったです。

Q こちらでの職業訓練短大についての評価というか、卒業生に対しての評価はどうですか。

うちの会社ではかなりいいと思います。

Q いろいろな資格を取られたんですか。

まだ取ってないです。

Q これに関係する資格はどんなものがありますか。

短大卒業ですと、実務4年で受験資格が得られる建築積算資格者というのがあります。

Q 取っている人いますか。

まだいないです。今年受けているんですがまだ発表ないんです。感触では受かっていると思うんですけど。

Q それを取りますと給料がアップするということがありますか。

資格の手当というのがありまして、それが月5千円くらいです。

Q 後、資格的なもので何かありますか、建築士はどうですか。

うちの事業所に関しては、あくまでも積算資格者ということですね。

処遇について

Q 給料幾らくらいもらっているんですか。

ええと税込み手取りで、20万円くらいですかね。

Q 同僚に比べたらどうですか。

似たりよったりです。

Q 大卒の人は大体幾らくらいですか。

よく聞いてないんですけど、2、3万は高いんじゃないんですか。

(面接者：石橋、江後)

H短大 情報技術科 H.3 卒

M.E君 (男性 22才)

勤務先 Tソフト (株)

現在の仕事について

Q Eさんは、卒業後ずっとシステム1課ですか。

1月に変わりまして、今は開発課という所にいます。主に自動倉庫とか、その制御というか、FA関係の仕事です。

Q それはどういう言語を使って仕事をやるんですか。

主にC言語でやります。学校で習ってましたんで、研修期間というのもありましたけれど、一応3カ月位で使えるようになりました。

Q その研修は、専門学校の人とか、他の大学をでた人とか、高校をでた人とか全部一緒にやるわけですか。

最初の1、2週間位は一緒にやるんですけども、その後は各課に配属されて、そこで研修みたいな形になるんです。

Q その各課に配属された方には、Eさんの他にどのような人がいるんですか。

そうですね、普通の四年制大学出の人とか、専門学校卒とかの人です。

Q やってる仕事は皆おんなじですか。

ええ、特に区別はないですけども。

Q これからも区別はないわけですか。

文系の大学からきた人もいますが、別にその辺は関係なく同じ仕事をしています。ですから、研修期間が3カ月くらいあるので、最初は簡単なものからになると思うんですけども、どうにかできるようになりますよね。

Q 短大出ということもあまり関係ないですか。

同期に入った人は、今では大体似たりよったりという事ですかね。結局は3カ年くらい経ってますから、そんなに変わらないと思います。

Q 残業もあるんですか。

そうですね、まあ、不景気でなんで、残業規制というのがありますが、プログラムは絶対作らなくてはいけないんで、できなければ、残業してでもやらなくてはいけないんです。

Q 今生きがいをもってやっているということですか。

大変ですけど、やっていますという感じです。

Q 仕事のできる人達とは、どういう学校をでているんですか。情報関係ですか。

そうですね。好きみたいです、そういうのが。

短大教育について

Q 短大での勉強で、どういう方面のが役に立っておりますか。

そうですね、C言語を学校でやりましたんで、この会社に限っていえば、すごくいけたな、という気がするんですけど。

Q Eさんが短大でた頃と今と比べて、もうちょっとカリキュラムとかで、こんなふうに変えたほうがいいな、とかいうのが何かありましたら。

特にはないです。

Q 同期の人とは一緒に遊びますか。

そうですね、やはり、いろいろしゃべったりするのは同期の人になりますね。

Q 短大での学科ではどういう事が仕事に役だってますか。

そうですね、データベースを最近使うようになってきましたんで、そのファイル処理というんですか、こっちがF A関係ですと、関連で制御というのがでてきちゃうんですね。後は通信ですか、そういう感じですかね。

(面接者：江後)

H短大 情報技術科 H.3 卒

M.H君 (男性 22才)

勤務先 T情報システム (株)

短大入学について

Q 高校を卒業したとき、職短をどうして受けようと思ったんですか。

自分は前からコンピューターに興味がありまして、実際には使った事なかったんですけど、そちらの方の学校へ行きたいというのがまずありました。できることなら、名古屋とかではなくて岐阜の方で探してましたので、それで選んだという事です。

Q 実家も岐阜ですか。

そうです。ですから自宅から学校に通いました。

Q 学校を選択するにあたって、H短大校の他はどこを受けましたか。

コンピュータと関係ないんですけども、H市にある医療系のデンタル技師の学校を受けました。

就職について

Q では就職を決めるに当たって、先生とか誰かに相談しましたか。

先生の方で、一応こういう所があるよ、という形で見つけていただいたので、それでこちらを選んだんです。

Q T情報システムにはH市の短期大学からは何人くらい入ってるんですか。

同期では2人です。後は、一つ下の後輩で2人入ってます。

Q 採用の時点で、格づけというか、高卒とか、いろいろあると思いますが、どういう待遇で採用されたんですか。

採用は、専門学校という形です。

Q 情報というのは、いろいろな専門学校がやってるんで、こちらでも結構多いんでしょう。同期の人ではこんなソフトの会社ばかりですか、就職したのは。

そうですね。

現在の仕事について

Q 卒業して何年ですか。

3年目です。

Q こちらでの部所はなんていうのでしょうか。

中開センEAです、中開センというのは中部ソフトウェア開発センターのEAグループです。EAはエンジニアリングオートメーションの略です。そういう課の名前です。

Q 具体的にはどういう仕事なさってるんですか。

ソフトウェアの開発になるんですけども、主に制御系の方で、C言語であるとか、フォートランであるとか、そちらの方の開発という事です。

Q どのような機械の制御をしてるんですか。

例えば、メッキラインの制御であるとか、画面の制御であるとか、そういったことです。

Q ここが初めての会社で、転職はしてないですか。

はい。最初の会社です。

処遇について

Q 今の仕事に満足してますか。

まあまあです。

Q というと多少不満があるという事ですか。

そうですね。

Q その不満はどんなことですか。

まあ、会社の特徴というものがあると思うんですけど、実際に残業が多いとか、給料が安いとか、手取りで15万くらいですから。

Q 友達に比べてどうですか。

まあ、1万2万は低いかなと思います。

Q 今の課でおなじ仕事やっている人では、どんな人が入っているんですか。

コンピューター関係の専門学校を卒業された方とか、普通の四大出ですね。

Q そう人達に比べて、能力によると思うんですけど、仕事のでき具合はどうですか。

別に引けをとってるとは思わないです。

Q まあよくできているということですか。

そうですね。

短大教育について

- Q 短大でいろいろ学んだと思うんですけど、この会社でいちばん役に立っているものといえば、
どのようながありますか。

実際の仕事ではフォートランとかC言語をやるので、そちら関係のプログラミング的な事が役に立ってます。後、仕事とは違うんですけど、情報処理の試験とかで、2種はとりあえず受かりましたんで、それなどは学校の授業のおかげだなと思ってます。

- Q 情報処理2種試験は学校の時受けられたんですか。

受けてません。

- Q それはいつとったんですか。

会社入って1年目の秋です。

- Q それをとるとこちらでは幾らか給料が上がるわけですか。

技術手当というか、今3千円いただいています。

- Q このコンピューター関係の資格として、他にどのようなものがありますか。

情報処理1種とか、オンライン特殊などです。

- Q そうなのが入ると、やはり給料が上がりますか。

はい上がります。

- Q 学校の時に1種とか2種とかとっておけばよかったですね。

そうですね、ただ、その時は2種がどういう試験であるのかにあまり興味がなくて、試験にどういう問題がでるとか、そういう事も全然考えていなくて、実際学校で習った事だけで大丈夫かなという気がしていたんで。

- Q 学校ではそのような事は勉強しなかったのですか。

試験ありますよという説明ではあったんですけども、まあ受ける人がいれば願書とりにきてという感じで終わっていましたんで。

- Q 会社では、在学時に情報関連の資格試験を受けておいた方がいいと思いますか。

それはやはり取っておいた方がいいと思います。

- Q 短大のカリキュラムですけど、もっとこう変えた方がいいとか、このような方がいいんじゃないかと、そんなことがありましたら。

実習というのがかなりあったんですけど、どうしてそういうものが必要かというのが、その時は全然分からなかったですよ。どちらかといえばやらされているという感じが強かったですけども、実際会社に入った場合、自分自らやるしかないんで、その必要性というのは、すごく分かってきたんで、その辺の外面的な事ですかね。

- Q では就職を決めるに当たって、先生とか誰かに相談しましたか。

先生の方で、一応こういう所があるよという形で見つけていただきまして、それでこちらを選んだんです。

(面接：江後)

J短大 電子機械科 H.1 卒

K. Z君 (男性 24才)

勤務先 P (株)

就職について

Q Zさんは今自宅から通ってるんですか、それとも会社の寮ですか。

寮です。自宅がN市ですので……。

Q 最近はお自分のうちから通いたいからといって会社を選ぶ人が、けっこういるでしょう。どうしてこんな遠いところに……。

最初は自分でこの会社を選んで来て、先生に話したら行けそうだとことでしたので、会社の説明会にも行ってきて、こういう短大があるということを書いて出してきたんです。

現在の仕事について

Q その後も後輩が入ってるとなると君は先駆者だね。後輩の為に道を作って素晴らしいことですね。そこで、今はどういう仕事をやってるんですか。

今はプリンターの中に入ってる部品の修復をする仕事をしています。

Q 壊れているのを直すのですね。

どこが悪いかを含めて全部やるんです。以前は、お客さんから頼まれたものを直していたんですけど、今は工場内のものだけを直しています。

Q 会社に勤めて丸3年ですね、入った時の仕事と、今の仕事は変わっていますか。

内容的には変わってないけれども、機種とかがいろいろ増えてきたために、仕事の範囲は広がってきています。

Q 最初はどうか。まあ、最初は先輩の指導もあったでしょうけど。

そうですね、最初は全然わかんなかったです。基礎から入っても応用が全然違うんです。初めてみると、けっこう難しいです。

Q 研修はなかったですか。

そういうのはないですね。中身的にはそんなに大きく変わらないで、少し速度が早くなるとか、機能処理が早くなるとか、その程度で、結局ついているものはそんなに変わらないんです。

Q 今、職場では何人位で仕事をしているのですか。

今は6人です、でも、みんな上の人ばかりなんです。高卒の人は、みんな6年目とか経験が長い人達ばかりです。

Q そうすると今の職場の6人の人達の中で、Z君はなん番手くらいの位置になるんですか。

担当機種別に分かれているんで、そんなのわかんないです。皆それぞれに機種専門みたいのがあるって。

Q その担当は誰が割り振るのですか。

それはチーフでしょうね。その人がある程度仕事をみながら、彼ならこの位の仕事ができるからこれをやらせようと割り振るんです。

Q そういう意味では結構見てるんだね。では、資格なんかはあまり関係ないのかな。

そういうことでは、あまり見てないんじゃないですか。うちでは資格をもっているけど、あまり関係ないです。そういうことで評価はされないです。

Q 資格をもっているけど関係ないというのは、実力だけという言い方になるのですか。

資格は資格ですけど、うちの会社はその資格をもっているからこれが出来るというふうなものがなくて、入ってからが勉強みたいな形になるので、こんな資格もってるからというのはあまり意味がないです。

Q まあ、逆にいうと学歴による差もないんだね。

そうですね。自分の実力次第ということになります。

処遇について

Q 同じ職場の中で、高卒の人もある訳ですね。で、採用枠に短大卒というのがあるんですか。

それはあります。しかし、高専卒はいないんです。

Q そうすると高校、短大、大学と、この辺になりますが、短大卒としての格づけは高卒とはだいぶ違いますか。例えば、Z君が3年目だとしたら、高卒の5年位の人と比べて給料はどうか。

あまり変わらないと思います。手取りだったら少ないです。そんなに多くないです。

短大教育について

Q 今振り返ってみて、短大の2年間でやったことが、今の仕事に役立ったということがありましたか。

そうですね、一応基礎的なことは大丈夫だと思うんですけど、やはり入ってみると、力を抜いてることは多かったという気がします。特にプリント板となると、情報処理関係とか、メカ関係とか、電気関係とか、電子関係とか、全部総合みたいになっちゃうんです。

Q 逆にいうともうちょっと短大にいたときに勉強しておけばよかったとかいう科目なんかはありますか。

そうですね、電気、電子関係はやらないと駄目ですね。

(面接者：坂本)